

茨城県自然博物館総合調査報告書

-2014 年 茨城県の昆虫類およびその他の陸生無脊椎動物の動向 -

Report of Comprehensive Surveys of Plants, Animals and Geology
in Ibaraki Prefecture by the Ibaraki Nature Museum

- Trends of Insects and Other Terrestrial Invertebrates in 2014 -



Bando, Ibaraki, Japan
March 2016



ムカシヤンマ *Tanypteryx pryeri* Selys, 1889 の幼虫 (常陸大宮市下伊勢畑, 2014 年 4 月 29 日, 佐々木泰弘撮影)。



キカマキリモドキ *Eumantispa harmandi* (Navás, 1909) (常陸太田市下高倉, 2014 年 7 月 11 日, 佐々木泰弘撮影)。



オオウスバカゲロウ *Heoclis japonica* (Hagen, 1866) の幼虫（ひたちなか市ひたち海浜公園，2014年7月25日，佐々木泰弘撮影）.



オオウスバカゲロウ *Heoclis japonica* (Hagen, 1866)（佐々木泰弘撮影）.



カワラハンミョウ *Cicindela laetescrpta* Motschulsky, 1860 (ひたちなか市ひたち海浜公園, 2014年7月19日, 佐々木泰弘撮影).



キイロテントウ *Illeis koebelei* Timberlake, 1943 (2014年12月21日, 佐々木泰弘撮影).



ニッポンハナダカバチ *Bembix niponica* Smith, 1873 (ひたちなか市ひたち海浜公園, 2014年7月19日, 佐々木泰弘撮影).



ウスバシロチョウ *Parnassius citrinarius* Motschulsky, 1866 (大子町, 2014年5月25日, 佐々木泰弘撮影).



ウラナミアカシジミ *Japonica saepestriata* Hewitson, 1865 (ひたちなか市ひたち海浜公園, 2014年6月8日, 佐々木泰弘撮影).



アオバセセリ *Choaspes benjaminii* (Guérin-Méneville, 1843) (大子町, 2014年5月22日, 佐々木泰弘撮影).

はじめに

当館は県立の自然史系博物館であり、茨城県内の自然に関わる情報を集積するための中核を担う機関のひとつとして、その役割を果たしてきた。当館では活動の基本方針に「地域自然の継続的調査研究」の推進を掲げ、開館以来、県内の動植物相、地学的特性およびそれらの保全状況などの情報を集める「総合調査研究」を行っている。また、この調査は情報の集積だけでなく、得られた情報を活用し、地域の自然環境に応じた生物多様性の保全を図るための活動につなげていこうとすることも目的としている。

「茨城県の昆虫類およびその他の陸生無脊椎動物の動向」は、2008年に発行されてから今年度で8回目の発行であり、本報告書は2014年度の調査報告をまとめたものである。今回も各分野において精力的な調査が行われ、本県に生息する種の新たな知見や調査員がフィールドで感じた昆虫相の変化とその要因などについて考察されている。近年は人為的な要因だけでなく、天候不順などの気象状況も影響している可能性が報じられ、変化をみていくために今後も調査を継続していくことの重要性を感じる。

茨城の大地に生息する動植物の、より新しくかつ正確な情報を市民に提供し、地域に応じた保全活動を支援していくことは当館の大きな使命のひとつである。

総合調査に参画した多くの方々の地道な調査研究に感謝申し上げますと共に、本書が各方面で広く活用されることを願ってやまない。

ミュージアムパーク茨城県自然博物館
館 長 菅 谷 博

目 次

総合調査研究について	1
「茨城県の昆虫類および その他の陸生無脊椎動物の動向」調査について	1
2014 年茨城県の昆虫類の動向	3
昆虫類	
カゲロウ目・カワゲラ目	11
トンボ目	15
バッタ目	23
カメムシ目	25
カメムシ目（アブラムシ類）	23
シリアゲムシ目	35
コウチュウ目	37
ハチ目	43
ハエ目（ハナアブ類）	45
トビケラ目	47
チョウ目（チョウ類）	51
チョウ目（ガ類）	57
その他の無脊椎動物	
茨城県の淡水海綿	61
日本産 <i>Parobisium</i> 属カニムシ研究の現状	65

総合調査研究について

ミュージアムパーク茨城県自然博物館が実施している「総合調査研究」は、茨城県内の動植物の分布や生息環境の特性、地質・気象などの地学的特性を把握し、それらの相互関係や変遷のメカニズムを解明するとともに、自然史資料の収集を図ることを目的とした調査研究活動である。当館では、総合調査研究を調査研究活動の中心として位置づけ、博物館が開館した1994年から実施している。1994～2005年の12年間をかけた第Ⅰ期総合調査研究では、茨城県全域を4地域に分け第1次から第4次の調査を実施し、県内の動植物と地学的特性についての調査を実施した。2006年からはじまった第Ⅱ期総合調査研究では、これまでの調査結果をもとに、茨城の自然の全体像を明らかにするために調査を進めている。

茨城陸生無脊椎動物研究会には、茨城県の昆虫などをリストアップするために、県内の昆虫とその他無脊椎動物相の動向調査を委託してきた。それに係る一連の調査の中で、刻々と変化する昆虫相の変化を記録するために、2007年度末から「茨城県の昆虫類および無脊椎動物の動向」を毎年発行してきたが、本報告は2014年の成果をまとめたものである。

「茨城県の昆虫類およびその他の陸生無脊椎動物の動向」調査について

茨城陸生無脊椎動物研究会は、県内の主に昆虫類と陸生無脊椎動物のファウナを調べるために組織された団体で、研究者や在野の研究家20名で構成されている。県自然博物館からの調査委託を受けて、県内の昆虫類や土壌動物を中心とした無脊椎動物の動向を調査してきた。本報告は2014年の調査結果をまとめたものである。

本研究会は、当面全体で約8,000種の記録を目指している。中でも甲虫類は最大のグループであり、40%弱を占める3,000種を目標としてきたが、前年度の記録に32種を追加し、本年度で112科3,025種となって当面の目標種数を達成することができた。また、カメムシ目については、2008年から2014年にわたって本総合調査報告書に掲載されたアブラムシ類のリストを整理して、中間的ではあるが8亜科、112種のリストとしてまとめられた。このリストには、これらアブラムシ類の寄主植物100種のリストも付されている。チョウ目のチョウ類については、小貝川流域に生息していたウスバシロチョウが近年絶滅した可能性が高いが、今年度は福島県側から南下してきたと思われる個体群が八溝山の茨城側でも確認された。ガ類については、新たに30種を追加して県内の記録は1,559種となった。甲虫に次ぐ大きな種数である。バッタ目では、これまでの記録を整理・検討した結果、県産種は確実にところ106種となった。クツワムシなど外来種の激減とは裏腹に、外来種のアオマツムシなどの増加が明らかになった。ハエ目は主にハナアブ科であるが、日本産ミズアブ属5種のうち南方系1種を除く4種が記録されるなど大きな成果をあげた。トビケラ目では、引き続き久慈川中流でライトトラップによる調査を行い、久慈川水系におけるトビケラ相が明らかになりつつある。トンボ目やハチ目など、その他の昆虫類についても地道だが粘り強い調査が行われ、動向を知る上での貴重な資料が蓄積されつつある。

その他の無脊椎動物については、カニムシの研究ノートに加え、今年度は、メンバー以外の研究者2名の協力を得て久々に淡水海綿類の報告があった。2008年の報告に今回さらに1属1種を追加し、本県からは日本全体(11属25種)の約半分に当たる8属13種が記録されたことになる。

限られた調査員で、全ての分類群をカバーするのは困難だが、主要なグループについては年次調査が着実に積み重ねられ、本県のファウナが次第に明らかになってきている。茨城県に限らず、多くの地域で生物多様性が失われつつあるので、動物相の経年変化を記録することは一層大きな意味をもってきている。

(茨城陸生無脊椎動物研究会代表 山根爽一)

2014 年茨城県の昆虫類の動向

佐々木 泰弘

はじめに

2014 年の天候は、2 月の記録的な大雪があり、夏前半の大雨とそれに続く高温という天候不順の年であった。地球温暖化による南方系動物の分布北上例について、本県でも多数報告されている。これからは、さまざまな環境変化が生物の発生に与える影響にも注意して生物をみていくことが大切な時代ではないだろうか。今年も本県の昆虫類において、環境変化の影響が出たことが報告されている。掲載順に各調査員からの報告をみてもみる。

各目の報告より

岸本のカゲロウ目・カワゲラ目では、注目種としてアカツキシロカゲロウがあげられている。本種は利根川水系のみで確認されていたが、県内の那珂川、久慈川に生息していたとある。また、シノビアミメカワゲラやフライソニアミメカワゲラなどの採集記録の少ない種や環境省のレッドリスト種が個体数を減少させており、「道路の拡幅工事、河川改修、増水などによる河道や河床の変化が影響しているのでは」とある。急激な増水が低地から山地にかけて水系の動植物に与える影響に注意していかなければならない。

廣瀬のトンボ目の報告でも、2014 年度は、梅雨時期や盛夏の異常な降雨と高温とで湖沼性トンボの観察記録数は過去 5 年間で最も少ない年であったとある。県内各地域での報告をみると、皇都川・相川・御前山ダム・桧山沢では、ムカシトンボ、ムカシヤンマの発生は安定しており、初夏には、オゼイトトンボ、モートンイトトンボ、サラサヤンマ、ときにはハッチョウトンボを確認したとある。また、ミルンヤンマをみたがコシボソヤンマには会えず、ミヤマカワトンボの数は減少したとある。八溝山ではムカシトンボを観察し、筑波山中腹、男の川岸ではダビドサナエ、ニホンカワトンボ、シオヤトンボを観察し、桜川市羽鳥の湿地では 30 年ぶりにハッチョウトンボを確認。そして、近年は行われていない桜川調査の必要性を述べている。常総市豊岡町の農業用ため池ではオオモノサシトンボ 15 個体を確認、茨城町涸沼川左岸湿地帯ではヒメマイトトンボ、日立市赤羽緑地ではクロスジギンヤンマ、マダラヤンマ、笠間市愛宕山から難台山の山麓ではナツアカネとマユタテアカネ、マイコアカネ、ミヤマアカネ、つくば市筑波実験植物園ではオオアオイトトンボ、ホソミオツネトンボ、小美玉市寺崎の台地上ではホソミオツネトンボなどを確認したとある。県内各地における精力的で貴重な報告がなされている。

同じく渡辺のトンボ目の報告では、城里町赤沢林道から常陸大宮市塩子にてムカシトンボ、ムカシヤンマ、クロサナエを確認。トラフトンボを常陸太田市栗原、那珂市鴻巣、那珂市北酒出、那珂市大内、水戸市全隈町、城里町塩子などの池沼で観察、城里町塩子のため池で、近年減少が著しいヨツボシトンボを確認とある。また、山田川のキイロヤマトンボは大きな変動はなく、モイワサナエは常陸太田市（旧里美村）で確認できたが、個体数は極めて少ないとある。生息域が局限される山地性のルリボシヤンマを日立市や城里町で確認し、近年各地で減少しているカトリヤンマを那珂市、水戸市、日立市（旧十王町）、石岡市（旧八郷町）で確認とある。また、マダラヤンマの新たな生息地として日立市（旧十王町）を、リスアカネの新たな生息地として日立市（旧十王町）と常陸太田市（旧里美村）での確認記録が報告されている。さらに、近年は著しく減少しているヒメアカネを城里町錫高野で確認したと報告している。

危惧されることとして、環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅰ類のコバネアオイトトンボの貴重な生息地である那珂市鴻巣の文洞溜池では、池の改修工事と夏季の降雨不足によって、生息池に長期間水が無くなる状態が続い

て、次年度の本種の発生に大きな影響があったので、継続して調査する必要があることを訴えている。また、日立市（旧十王町）の海岸沿いの池沼では本種の姿をみることはできず、2011年の東日本大震災による津波の影響を大きく受けているのではないかと述べている。

特筆すべき事項については、城里町錫高野の休耕田で多くのモートンイトトンボの確認をあげ、同地ではオゼイトトンボ、キイトトンボ、ハッチョウトンボ、ハラビロトンボなどの近年減少が著しい湿地性トンボ類も混生していたことを述べている。しかし、夏季にはイノシシの「ぬた場」となり、かなり荒れてしまったとある。希少な湿地性昆虫類を保全するためには、獣害防止対策を講ずる必要があると述べている。農作物だけでなく貴重な生物を守るためにも対策が必要であることを提言していかなければならない。また、ビオトープにおける生物相の変化と管理手法について、2004年に阿部らによって水戸市（旧内原町）の鯉淵学園構内に造成された人工湿地とビオトープの報告をあげた。ビオトープがもつ環境保護への重要性を示した貴重な提言であり、是非参考にしたい。

井上のバッタ目の報告では、注目すべき種として茨城県版レッドリストにおいて希少種となっているカヤコオロギがあげられている。カヤコオロギの生息地の一つである、ひたちなか市中根の虎塚古墳の生息地を調査したが確認できなかったとの報告があった。樹木の生長によってチガヤ群落が著しく減少し、生息に適さない環境になっていたとある。当地は有名な古墳ということもあり定期的な草刈りなどの管理が行われていたが、樹木の生長による昆虫への影響までは配慮がなかったようであるとのことであった。生息地となっている場所の管理者との関係が、貴重な生物の保護には必要であることをあらためて感じた。なお、常陸太田市では、わずかに本種の生息が確認されたとあるが、環境がこのまま保たれるか心配である。また、ウスグモスズを神栖市で確認、ハネナガイナゴを県央や県南地区からも確認をしたことが報告されている。さらに、茨城県産の鳴く虫を含むバッタ類の種数として、茨城県産の鳴く虫 58 種、バッタ目として 108 種があげられている。そのなかで、県産の要検討種として、アリツカコオロギ 2 種（仮同定）、ナギサスズ 2 種をあげている。バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑（日本直翅類学会、2006）の都道府県別分布表にて掲載されなかった種で、現在本県において生息が確認されている種として、セスジササキリモドキ、ウスグモスズ、イナゴモドキ、カワラバッタの 4 種があるが、カワラバッタは大図鑑発行前に茨城県からすでに採集記録があったことが述べられている。最後に、茨城県のバッタ相の特徴として、以下の 7 点があげられている。

(1) 海岸線が長く海浜性の種がみられる（ヤマトマダラバッタ、ハマスズなど）、(2) 平野の湿原などに遺存的な希少種が生息（オオクササキリ、カスミササキリ、ユウキュウチビスズなど）、(3) 太平洋側の北限種（オオクササキリ、クロツヤコオロギ、コガタコオロギ、セスジササキリモドキなど）、(4) 北限に近い個体数が少ない種（クツワムシ、マツムシ、スズムシ）、(5) レッドデータ種のクロツヤコオロギの生息が確認できなくなり、クツワムシ、オオクササキリなどが減少、(6) 外来種として、アオマツムシ、ウスグモスズが非常に多い、(7) セスジササキリモドキが千葉県を飛び越えて県北の一部に比較的多産するのが説明困難である。これらの特徴の多くは、ほかの分類群の昆虫類にもいえることであろう。

成田のカメムシ目の報告では、水戸市域周辺のシマアメンボについて述べられている。水戸市の台地周囲には大小の湧水が発達することから本種の生息に適した環境は多く存在し、生息場所は多くあるものと考えていた。しかし、出現の頻度は高くはなかった。その原因は、土木的な工事などによる生息地の消滅や水量の減少といったことばかりではないように思われるとある。さらに、海浜部のカメムシ類について、ヒメマダラナガカメムシ（ヒルガオの群落にて確認）、ヒメトゲヘリカメムシ（海浜部ではそう稀でなく確認）の 2 種の報告があった。残念ながら今年度もイシハラカメムシの確認はならなかったようである。

松本のカメムシ目（アブラムシ類）では、同定が完了した 2 種が報告された。ナナカマドハマキアブラムシ（北茨城市関本町小川・亀谷池湿原）、ヤノイスアブラムシ（土浦市・宍塚大池）である。また、茨城県産アブラムシ目録として 8 亜科 112 種がまとめられ、寄生植物目録として寄生植物 100 種を 50 音順に列举し、その植物にみられるアブラムシがまとめられている。これらの目録は、県内の昆虫目録をまとめる際の資料として重

要である。

櫻井のシリアゲムシ目では、県内の記録としてシリアゲムシ科が 7 種、ガガンボモドキ科が 4 種となる。2014 年度調査では、次の 4 種について述べている。ヒロオビシリアゲは八溝山にて確認出来ず、スカシシリアゲモドキは加波山山頂付近において確認、ガガンボモドキの小貝川公園敷地内河畔林は県内では最も規模の大きな多産地と思われること、トガリバガガンボモドキを八溝山東側の池ノ平 (879.7 m) において確認したことを述べている。

大桃のコウチュウ目の報告では、コウチュウ目昆虫の調査状況として、2013 年度までに 2,991 種（訂正後に正確には 112 科 2,993 種）をあげ、2014 年は県初記録として 4 科 4 種、文献記録として 16 科 32 種を追加し、茨城県産コウチュウ目は 112 科 3,025 種となった。当初目標の 3,000 種を超えたことあり、素晴らしい成果である。初記録追加種 4 種は、カワツブアトキリゴミムシ（笠間市岩間町・愛宕山）、セマダラナガシクイ（美浦村・陸平貝塚）、トゲナシチビケシキスイ（美浦村・陸平貝塚）、ヒゲナガホソミズギワハネカクシ（美浦村・陸平貝塚）である。調査地の状況として、キンイロネクイハムシなどの水辺環境に生息する甲虫類の貴重な産地であった上曽峠周辺の沢と湿地が、伐採などの森林事業によって埋め立てられてしまい、本当に貴重な環境の消失であり残念であったことが強調されている。

久松のハチ目では、城里町においてウマノオバチの蛹が観察されたことが報じられている。蛹の記録は、全国的にも稀有な記録である。また、本県の科学研究作品展にて、つくば市立前野小学校 4 年の須藤遼平君のトビロケアリ観察実験が紹介されている。小さな昆虫博士は大切に育てたいものである。

市毛のハエ目（主にハナアブ科）の報告では、八溝山でシコクミズアブが採集され、これは本州初記録とのことである。本属 5 種のうち南方系の 1 種を除いた全ての種が茨城県に分布していることが判明したとある。また、八溝山からは、亜高山性といわれるタカネクロバエらが、現地で発生を繰り返している可能性が濃厚であることが述べられている。

勝間のトビケラ目では、2013 年に引き続き久慈川での調査を行ったとある。久慈川のトビケラ相が徐々に解明されつつある。茨城県内で確認されたトビケラ目の状況として分類学的研究の進展により日本産コバントビケラ属について、分類学的な整理が行われ、日本産 3 種が新たに認められた。その結果、勝間 (2006, 2011) で記録されたコバントビケラ属の一種 *Anisocentropus* sp. はコバントビケラ *Anisocentropus kawamurai* (Iwata, 1927) であることが明らかとなった。また、茨城県初記録種と思われる種が 3 種確認された。ウルマーイワトビケラ属の一種 *Polyplectropus* sp., ヒラアタマスナツツトビケラ、ヤマガタトビロトビケラである。

佐々木のチョウ目（チョウ類）では、まず、ウスバシロチョウの再記録があげられている。1987 年に伊奈町小貝川河川敷で確認されて以来、27 年ぶりの県内での記録となる。2002 年に八溝山県境近くの福島県で生息が確認されて以来調査が続けられてきたが、ようやく本県内での確認ができた。また、2012, 2013 年に続きキベリタテハの確認もあり、ひたちなか市という低地での 8 月の記録や筑波山での記録があった。そして、アカボシゴマダラの分布拡大も報告がある。県北地区の犬子町男体山山頂でも確認され、まもなく県全域に広がる勢いである。注目種としてあげた中では、採集圧が心配な北茨城市花園小川のチャマダラセセリや当地にて記録されたヒメシロチョウの生息確認について、継続的な調査を実施し、生息状況を注視していきたい。

林・佐藤のチョウ目（ガ類）では、2010 年から開始した筑波山城のガ類定点調査を 2014 年も継続し、2013 年から開始した武生山での定点調査も並行して行った。取手市本郷での調査は終了したが、新たに取手市小文間での調査を開始したとある。その結果、茨城県初記録となる種が 30 種あったと報告した。また、土浦市の宍塚大池での確認種は 516 種に到達し、筑波山では 681 種、取手市では 411 種のガ類を記録したとある。貴重な記録である。茨城県のガ類は現時点で 1,559 種となった。初記録種の紹介として、タツタカモクメシャチホコ（県北各地で続々と産地が明らかに）、アサケンモン（関東以西分布種）、スジキノコヨトウ（局地的な種で本州では内陸部から日本海側に分布）、ヒメアケビコノハ（南方系種で 2000 年代以降、

本州に北上)をあげてある。注目種・希少種としては、イチモジヒメヨトウ(茨城県版レッドデータ希少種、県内では利根川本流域での初記録)、クロシオハマキ(南方系種で、県内では北限記録)、ヒロバウスアオエダシヤク(南方系種、筑波山では確実に定着)、ミドリリング(南方系種、武生山で記録、定着が確認)、アミメキシタバ(県内記録はこれまでに2例、武生山で確認)、アサマキシタバ(茨城県2例目の記録)、フチグロトゲエダシヤク(久慈川流域で初記録)などをあげている。発生時期に関しての新知見としては、チャノコカクモンハマキ(発生時期は3~10月とされるが、1月に採集)、サカイマルハキバガ(発生時期は7~8月とされるが、5月採集、年2回発生の可能性)、ウスキクロテンヒメシヤク(筑波山で年3回発生を確認)、チャマダラキリガ(5月採集、成虫越冬して遅くまで生存)など新しい知見が示されている。

茅根・池澤・益田の茨城県の淡水海綿では、新しく1種を確認し、茨城県の淡水海綿は8属13種となったことが報告されている。日本では今までに11属25種が報告されているので、その約半数が県内で記録されたこととなる。新確認種はツツミカイメンである。

坂寄の日本産 *Parobisium* 属カニムシ研究の現状では、*Parobisium* 属の筑波山産の標本は今まで報告してきた種とは、別種との可能性もあり調査中とのことである。

まとめ ー各目の報告を見渡してー

近年の急激な気温変化、異常な降水量など異常気象の影響による水系の変化や夏場の渇水などが、カゲロウ、カワゲラ、トンボなどの水生昆虫に与える影響を分析し対策を考えていく必要がある。県内各水系の調査をさらに継続していくことが必要である。また、山地内の湿地や草地などについてはこれまで、林道の拡張工事や落葉樹林の伐採など人為的な影響の心配が中心であったが、増えすぎたイノシシなどの獣害による影響も考えなければならない。これまでは県内にいなかったニホンジカやキョンの侵入も危惧されている。シカが与える影響の大きさは隣県の栃木県や福島県で非常に大きな問題になっている。大型動物の動向をとらえていくとともに、早めの獣害対策、農業・林業での対策とあわせて、貴重な無脊椎動物の保全に対しての対策が求められる。また、カヤコオロギの報告にみるように貴重生物の保護には、生息地の管理者との関係も必要である。

今年は八溝山地から興味ある報告がいくつかなされた。ウスバシロチョウやシコクミズアブ、タカネクロバエなどの報告である。八溝山は茨城県の最高峰であるがそれでも1,000 m程度しかなく、本県内に亜高山帯生物相がないことにつながる。しかし、栃木、福島の亜高山帯に一番近いところに位置しているわけで、チョウ類など移動能力の高い昆虫類が移動してくる確率が高い地域ともいえる。また、沢が多く入り込んでいる。そこに遺存的に残るトワダカワゲラ、ムカシトンボなどの水生昆虫もあげられる。山頂付近のブナ林の昆虫類ばかりでなく、中腹にかけての沢沿いに残る林なども詳しく調査していく必要があるのではないだろうか。

また、南方系種の分布拡大についての報告も毎年のように続いている。特にクロシオハマキ、ヒロバウスアオエダシヤク、ミドリリングなどが多く報告された。南方系というわけではないが、アカボシゴマダラの分布拡大も速く、数年で県全域に広がる勢いである。本種の県北での記録については、北側の福島県側から回り込むように侵入してきたものと考えられる。本県への分布拡大ルート1例として注目したい。

そして、各分類群の調査員が参加して行った報告会の中で出た話題として、ヒヌマイトトンボがヨシにつくモモコフキアブラムシを重要な餌としているようであるとの報告があった。このような、「目」をまたいだつながりや情報交換などをする機会の場合として、この報告会は重要であろう。

また、コウチュウ目昆虫類で茨城県産確認種数が3,025種となり、目標3,000種を越えた成果があげられた。チョウ目ガ類でも1,559種となり、さらに、アブラムシ目録112種やバッタ目108種が報告された。茨城県産昆虫目録としては、四半世紀前1993年に水戸市立博物館より出されたものだけで、そこでは27目389科4,695種があげられている。現時点でまとめれば、7,000種近くになるのではないだろうか。そろそろまとめあげておく段階ではないかと考えられる。

2014 年注目すべき昆虫図書・雑誌・論文など

2014 年に出された茨城県の昆虫類・その他無脊椎動物関係の文献についてまとめた。各目の報告にもあるが、書籍ごとにまとめ、その中で発行月および掲載ページの若い順に配列した。なお文献後の〔 〕内は簡単な記載内容である。

月刊むし：むし社

- 公文 暁・公文保幸. 2014. 茨城県北部の山間で見つかった甲虫類. 月刊むし, (516): 38-40. [八溝山地から 3 種, 多賀山地から 6 種, 久慈山地から 2 種の記録]
- 金子道夫・青木淳一. 茨城県で発見されたヨーロッパ産のホソカタムシ. 月刊むし, (520): 33-34. [土浦市 宍塚大池での記録]
- 黒田亜富. 2014. チャマダラセセリの新食草. 月刊むし, (521): 57. [北茨城市にて食草としてクマイチゴを確認]
- 公文暁・公文保幸. 2014. 茨城県におけるブナケシカミキリの生態的知見. 月刊むし, (525): 54-57. [大子町上野宮での記録]
- 山口芽衣・蔵満可夢. 2014. 茨城県南地域におけるアカボシゴマダラの記録. 月刊むし, (526): 13. [茨城県つくば市天王台での記録]
- 藤田 宏. 2014. 茨城県笠間市におけるヒラヤマコブハナカミキリの記録. 月刊むし, (526): 14. [笠間市岩間町難台山での記録]
- 廣瀬 誠. 2014. 水戸市におけるラクダムシの記録. 月刊むし, (526): 24. [水戸市常磐町での記録]

昆虫と自然：ニュー・サイエンス社

- 荻部治紀. 2014. トンボ類における最近の外来種問題. 昆虫と自然, 49(7): 16-19. [つくば市のベニイトトンボについて触れている]
- 大阿久義徳. 2014. 同好会インフォ No. 19 茨城昆虫同好会の活動. 昆虫と自然, 49(10): 26-27. [1961 年に発足した県内最古の昆虫同好会, 会の歴史, 活動や会員の高齢化問題]
- 櫛井優志. 2014. タガメ *Lethocerus deyrollei* の生息環境と飼育観察実験 (1). 昆虫と自然, 49(11): 29-32.
- 櫛井優志. 2014. タガメ *Lethocerus deyrollei* の生息環境と飼育観察実験 (2). 昆虫と自然, 49(12): 32-34. [茨城県内, 栃木県内でタガメの調査, 孵化の観察]

はなあぶ No. 38：双翅目談話会会誌

- 市毛 勝義. 2014. *Protocalliphora maruyamensis* マルヤマトリキンバエと *Trypocalliphora braueri* ヤドリトリキンバエを茨城県で採集. はなあぶ, (38): 37.
- 市毛 勝義. 2014. 茨城県 *Odontomyia* 属 (ミズアブ科) について. はなあぶ, (38): 44-48.

るりぼし No. 43, Dec., 2014：水戸昆虫同好会

- 大桃定洋・高野 勉. 2014. 茨城県産甲虫リスト補遺 (4). るりぼし, (43): 2-36.
- 公文 暁. 2014. 花瓶山周辺で見つかった甲虫類の記録: その 5. るりぼし, (43): 37-46.
- 公文保幸・公文 暁. 2014. 堅破山の甲虫. るりぼし, (43): 47-57.
- 公文 暁. 2014. 鹿行地域のカミキリムシ (補遺). るりぼし, (43): 58-59.
- 高橋晴彦. 2014. 阿武隈山地のフジミドリシジミはマンサクを食うか. るりぼし, (43): 60-65.
- 櫻井 浩. 2014. 茨城県のウスバカゲロウ科の記録. るりぼし, (43): 66-67.
- 高橋 潔・高橋晴彦. 2014. ウスバシロチョウを八溝山の茨城県側で採集. るりぼし, (43): 68-69.

- 有賀俊司. 2014. 阿武隈のウスバシロチョウ その3. るりぼし, (43):70-71.
- 蔵田駿一. 2014. 虫の思い出. るりぼし, (43):72-73.
- 佐々木泰弘. 2014. 古図鑑「三省堂原色昆虫図譜」の茨城県産昆虫データー. るりぼし, (43):74-76.
- 日置正義(文責:綿引健夫). 2014. 日置さん, 昭和24年の採集記. るりぼし, (43):77-81.
- 井上大成. 2014. 茨城県における2007年~2013年のクロノマチョウの記録. るりぼし, (43):82.
- 井上大成. 2014. ムラサキシジミの集団越冬をつくば市で観察. るりぼし, (43):82.
- 井上大成. 2014. 茨城県におけるクロミドリシジミ蛹の発見例. るりぼし, (43):83.
- 秋田浩行. 2014. 八千代町でアカボシゴマダラを採集. るりぼし, (43):84.
- 木村権一. 2014. 常陸太田市でキベリタテハ・2例目の目撃. るりぼし, (43):84.
- 木村権一. 2014. ひたちなか市でキベリタテハを目撃. るりぼし, (43):85.
- 木村権一. 2014. ベニシジミの前翅暗化型を採集. るりぼし, (43):85-86.
- 木村権一. 2014. ひたちなか市のツマグロキチョウの一産地が消滅?. るりぼし, (43):86.
- 有賀俊司・中田迅彦・内山孔貴. 2014. 阿武隈山地において分布を拡大したスギタニルシジミの食樹について. るりぼし, (43):87.
- 有賀俊司. 2014. 阿武隈山地におけるアカボシゴマダラの記録. るりぼし, (43):87.
- 荒川 正. 2014. 水戸市でホソオビアシブトクチバが羽化. るりぼし, (43):89.
- 木村権一. 2014. 常陸太田市におけるニホンセセリモドキの追加記録. るりぼし, (43):89-90.
- 染谷 保・渡辺 健. 2014. 茨城県北部におけるタッタカモクメシャチホコの記録. るりぼし, (43):90.
- 染谷 保・渡辺 健. 2014. 太子町でギンボシスズメを採集. るりぼし, (43):90.
- 渡辺 健. 2014. 茨城県におけるアカマダラセンチコガネの追加記録. るりぼし, (43):91.
- 渡辺 健・染谷 保. 2014. 高萩市でアイヌコブスジコガネとコブナシコブスジコガネを採集. るりぼし, (43):91.
- 渡辺 健・染谷 保. 2014. 城里町でセマダラナガシנקイを採集. るりぼし, (43):91-92.
- 渡辺 健. 2014. 常陸太田市でオオキボシハナノミを採集. るりぼし, (43):92.
- 渡辺 健・染谷 保. 2014. 太子町でヨツバコガネを採集. るりぼし, (43):92-93.
- 川村玄季. 2014. 茨城県下における記録の少ないカミキリムシ科甲虫3種の採集例. るりぼし, (43):93-94.
- 一家伴安. 2014. つくば市におけるアオサナエの記録. るりぼし, (43):94.
- 一家伴安. 2014. つくば市でアオハダトンボを確認. るりぼし, (43):95.
- 軍司 平. 2014. 水戸市でリスアカネ・コノシメトンボを採集. るりぼし, (43):95.
- 軍司 平. 2014. 水戸市全隈町でキイロサナエを採集. るりぼし, (43):96.
- 渡辺 健. 2014. 水戸市でクマゼミの鳴き声を聞く. るりぼし, (43):96.

茨城生物 No. 34, MAR., 2014: 茨城生物の会

- 青木好明. 2014. 結城市におけるアカボシゴマダラの拡散・増加. 茨城生物, (34):14-16.
- 鈴木成美. 2014. 筑波実験植物園のウラギンヒョウモン. 茨城生物, (34):17.
- 廣瀬 誠. 2014. 逸話にならない蟲の午後. 茨城生物, (34):18-25. [オオミスジコウガイビル, ツクバクロオサムシ, ヨコヅナサシガメ, キトンボ, ホソミオツネントンボ等]
- 鈴木成美. 2014. ラベルを読む - 昭和23年(1948年)水海道産ウスバシロチョウ標本との再会. 茨城生物, (34):35-37.
- 岩寄雄一郎. 2014. 水戸市とその近郊における身近な生き物調べ. 茨城生物, (34):38-45. [ゲンジボタル, ヘイケボタル, スジグロボタル, タガメの記述]

茨城県自然博物館研究報告 No.17, Dec., 2014 : ミュージアム茨城県自然博物館

坂寄 廣. 岡山産オウギカニツチムシ *Allochthonius* (*Allochthonius*) *opticus* の再記載 (カニムシ目, ツチカニムシ科). 茨城県自然博物館研究報告. (17): 1-6.

坂寄 廣. ヤマトツチカニムシ *Allochthonius* (*Allochthonius*) *shintostictus* Chamberlin, 1929 の後胚子発生 (カニムシ目: ツチカニムシ科). 茨城県自然博物館研究報告. (17): 7-17.

大桃定洋・久松正樹・中川裕喜. 筑波山の甲虫目録・補遺 (I). 茨城県自然博物館研究報告. (17): 25-57.

一般書籍

田上公恵. 2014. 生き物調査っておもしろい! 花室川と高校生と環境教育. 314 pp., STEP 出版. [茨城県立竹園高校の保健委員会が 1996 年から 17 年間にわたり続けてきた「花室川の水生生物による環境調査」の活動の記録.]

ミュージアムパーク茨城県自然博物館. 2014. 地球再発見 いばらき自然ものがたり. 317 pp., 茨城新聞社.

カゲロウ目・カワゲラ目

岸本 亨

2014 年のカゲロウ目・カワゲラ目昆虫の動向

2014 年度はあまり調査を行うことができなかったため、得られた標本も少なかった。本報告では私が実施した 10 月から 2015 年 2 月までの調査と、水戸市在住の今井初太郎氏が 4 月から 7 月に行ったカワゲラ目調査の結果を合わせてまとめた。

今年度は県北地域の花貫川、久慈川、里川、天竜川（久慈川支流）、那珂川、皇都川（那珂川支流）において幼虫や成虫の調査を行った。今年度の前半は雨が多く、調査にでかけても増水のため採集できない状況が続いた。

以下に、カワゲラ目について 2014 年度の採集記録の一部と生態に関わる情報などについて記す。

カゲロウ目については標本の整理が進んでいないため、採集記録は割愛させていただく。注目種としてアカツキシロカゲロウ *Ephoron eophilum* が挙げられる。2012 年度に詳細な調査を行ない、それまで利根川水系でしか発見されていなかった本種が県内の那珂川、久慈川にも生息していることがわかった。2014 年度は新たに本種の生息地を確認することはできなかった。

カワゲラ目 Plecoptera

ヒロムネカワゲラ科 Peltoperlidae

1. ノギカワゲラ

Cryptoperla japonica (Okamoto, 1912)

3♀, 18. VI. 2014, 高萩市中戸川, 今井初太郎。

雌成虫は腹部に卵塊をもっていた。

カワゲラ科 Perlidae

1. フタツメカワゲラの一種

Neoperla sp.

1♀, 23.V. 2014, 東茨城郡城里町, 今井初太郎;
6♀, 10. VI. 2014, 大子町小生瀬・久慈川支流, 今井初太郎;
1♂4♀, 18. VI. 2014, 茨城県高萩市中戸川,

今井初太郎。

今までに茨城県ではフタツメカワゲラ属はクロフタツメカワゲラ *Neoperla hatakaeyamae* と（仮称）ハルフタツメカワゲラ（文献中では *Neoperla* sp.1）が記録されている（吉成, 2007）。採集された標本を見ると、頭部斑紋や脚部の黒色部などはハルフタツメカワゲラに類似している。6 月に採集された雌個体は腹部に卵塊をもっていた。

2. クラカケカワゲラ属の一種

Paragnetina sp.

4♂1♀, 22. VII. 2014, 茨城県高萩市中戸川, 今井初太郎。

クラカケカワゲラ属はオオクラカケカワゲラ *Paragnetina tinctipennis* が記録されているが（吉成, 2007）、雄の腹部背面の隆起や腹部末端の形状が若干異なっている。

3. クロヒゲカワゲラ

Kamimuria quadrata (Klapalek, 1907)

4 幼虫, 13. II. 2015, 茨城県常陸太田市里川町漆平・里川, 岸本 亨。

本種は県内に広く分布する普通種である。

4. モンカワゲラ

Calineuria stigmatica (Klapalek, 1907)

10 幼虫, 13. II. 2015, 茨城県常陸太田市里川町漆平・里川, 岸本 亨。

本種は山地の河川では普通種である。

5. コナガカワゲラ属の一種

Flavoperla sp.

3 幼虫, 13. II. 2015, 茨城県常陸太田市里川町漆平・里川, 岸本 亨。

本属は幼虫だけでは同定は難しい。以前は *Gibosia* という属名であったが、近年 *Flavoperla* に

移された。本県では *Flavoperla thoracica* が記録されている（吉成，2007）。

6. ヤマトカワゲラ

Niponiella limbatella Klapalek, 1946

1 幼虫, 13. II. 2015, 茨城県常陸太田市里川町漆平・里川, 岸本 亨.

山地の河川において個体数は多くないが、普通に採集される種である。

アミメカワゲラ科 Perlodidae

1. ヒロバネアミメカワゲラ

Pseudomegarcys japonicus Kohno, 1946

1 幼虫, 13. II. 2015, 茨城県常陸太田市里川町漆平・里川, 岸本 亨.

2. ニッコウアミメカワゲラ

Sopkalia yamadae (Okamoto, 1917)

9 幼虫, 13. II. 2015, 茨城県常陸太田市里川町漆平・



図 1. 里川源流域（撮影：2015 年 2 月 20 日）。



図 2. 里川源流域の森林伐採地（撮影：2015 年 2 月 20 日）。

里川, 岸本 亨.

山地の河川に生息する種であり、里川の源流域（図 1）では個体数は多くはないが普通に採集される。

3. シノビアミメカワゲラ

Megaperlodes niger Yokoyama, Isobe et Yamamoto, 1986

1 幼虫, 13. II. 2015, 茨城県常陸太田市里川町漆平・里川, 岸本 亨.

本種は県内でも採集記録の少ない種である。生態についてはほとんどわかっていない。下の写真はシノビアミメカワゲラの生息地である。

シノビアミメカワゲラの幼虫はこのような環境を好むが、この生息地では約 1 時間調査して幼虫 1 個体を採集できただけである。生息地周辺の環境は道路の拡幅工事、河川改修、そして川沿いの森林伐採（図 2）などにより徐々に変化しており、シノビアミメカワゲラだけでなく、多くの水生生物の生息に影響がでる可能性がある。

毎年この場所で採集をすると、トワダカワゲラ *Scopura longa* の幼虫が必ず採集できたが、2 月の調査では 1 個体も採集することができなかった。個体数の少ない時期であるので、今後また再確認するつもりである。

4. フライソンアミメカワゲラ

Perlodes frisonanus Okamoto, 1912

5 幼虫, 20. II. 2015, 茨城県常陸太田市小貫・久慈川, 岸本 亨.

本種は全国的に生息地が少なく、環境省のレッドデータリストで準絶滅危惧種に選定されている。



図 3. 久慈川のフライソンアミメカワゲラ生息地（撮影：2015 年 2 月 20 日）。

県内の河川では久慈川で比較的広い範囲で生息しているが、個体数は少ない。昨年度と比較すると採集される個体数は減少している。

図3は2013年度に本種を多く採集できた場所であるが、昨年に比べると礫がかなり多く堆積し、流れも変わってしまった。同じ場所に生息するヒメオオヤマカワゲラ *Oyamia seminigra* は多く採集できた。増水などによる河道や河床の変化はフライソンアミメカワゲラの生息に大きく影響を及ぼすと思われる。その他の生息地も環境が変化しており、本種

の幼虫を採集するのが困難であった。

引用文献

吉成 暁. 2007. 茨城県のカワゲラ相（第1報）. るりぼし, (34): 7-14.

2014年のカゲロウ・カワゲラ目昆虫の文献

茨城県のカゲロウ目・カワゲラ目に関して出版された文献はない。

トンボ目

廣瀬 誠

2014 年のトンボ目昆虫の動向

年間を通して調査日前後の悪天候が流域河川の水環境に不適当な条件をもたらし、トンボ目幼虫の採取、同定などで十分に目的を果たせず、加えて梅雨時期や盛夏の異常な降雨と高温とで湖沼性トンボの観察記録数は過去 5 年間で最少の年となっている。それでも、水域を含め安定感を見せる環境においては継続的に絶滅のおそれがある種とされ、要保護のトンボ類を観察できた地もあり、特に涸沼とその周辺でのヒヌマイトトンボ *Mortonagrion hirosei*、ナゴヤサナエ *Stylurus nagoyanus* の発生数には安心させられた。山地においても八溝山系の各地におけるムカシトンボ *Epiophlebia superstes* 幼虫の生息地の増加確認ができ、成果を報じることができて嬉しい。以下、調査日における観察記録の概要などを当日の野帳から引用しておく。

4 月 29 日、城里町と常陸大宮市を流域とする皇都川、相川、御前山ダム、桧山沢などは、安定したムカシトンボ、ムカシヤンマ *Tanypteryx pryeri* の生息域であった。林間の小湿地、休耕田内外には初夏、オゼイトトンボ *Coenagrion terue*、モートンイトトンボ *Mortonagrion selenion*、サラサヤンマ *Sarasaeschna pryeri*、ときにはハッチョウトンボ *Nannophya pygmaea* を見る。これら 4 種のトンボは幼虫生息の水環境の条件に支配され、この流域においても、乾燥・草原化などで絶滅も容易に想定できる。小河川の沿岸のダビドサナエ *Davidius nanus*、ヒメクロサナエ *Lanthus fujiacus*、ヤマサナエ *Asiagomphus melaenops* は少数ながら健在、ミルンヤンマ *Planaeschna milnei* を見たがコシボソヤンマ *Boyeria maclachlani* には会えず、ミヤマカワトンボ *Calopteryx cornelia* の数は減少した。

隣県栃木的那珂川支流から記録されたグンバイトンボ *Platycnemis foliacea* は本県においては未記録種である。

5 月 17 日、大子町八溝山日輪寺下の沢一帯のヤゴ類調査では、目的のムカシトンボ老熟幼虫からパング紋様の若齢幼虫まで 21 個体を数えることができ、水網の水生昆虫の幼虫類に混じって両生類ハコネサンショウウオも動き出す。ミヤマカワトンボ、サナエトンボ類、オニヤンマ *Anotogaster sieboldii* の幼虫も手にした。ムカシトンボ成虫は、流れの上を低く飛び、上流方向のワサビ田で高く舞う飛翔習性を毎年見せてくれているが、この時期では配偶行動は見られない。老杉の樹幹に残されたムカシトンボの羽化殻ひとつは持ち帰った。山頂にはトンボの姿なく、盛夏なら確実に観察できたミヤマサナエ *Anisogomphus maacki* の静止する岩石を叩いてみた。

6 月 25 日、筑波山女体山頂に 1 時間。ブナ林帯にはトンボ類の姿はなく、山麓の池沼、水田などで羽化、直ちに高所を求めて移動してくるのではないかと予想したアキアカネ *Sympetrum frequens* 未熟個体の目視確認を意図したが、トンボ科昆虫と遭遇できなかった。中腹、男の川岸でダビドサナエ、ニホンカワトンボ *Mnais costalis*、シオヤトンボ *Orthetrum japonicum japonicum* を記録し、桜川市羽鳥の湿地で成熟したハッチョウトンボ♂を見て、30 年ぶりの再会を果たした。市内を南下する桜川は 1950 年代末まではサナエトンボ科メガネサナエ *Stylurus oculatus*、ナゴヤサナエの安定した生息地であると枝重夫氏によって報告されたが、その地での後継者はなく、近年、桜川を精査するトンボ研究者は不在のまま。両種とも本県においては絶滅のおそれのあるトンボに列せられている。桜川の中・上流域の調査が待たれてならない。

6 月 27 日、常総市豊岡町農業用溜池一周で、羽化直後から成熟個体までのオオモノサシトンボ *Copera tokyoensis* を計 15 個体確認し、池畔でコフキトンボ *Deielia phaon*、チョウトンボ *Rhythemis fuliginosa*、コシアキトンボ *Pseudothemis zonata*、シオカラトンボ *Orthetrum albibstylum speciosum*、そ

れとイトトンボ類ではアジアイトトンボ *Ischnura asiatica*, クロイトトンボ *Paracercion calamorum calamorum*, オオイトトンボ *Cercion sieboldii* を確認できた。岸辺のヨシ群落内のオオモノサシトンボ, 群落の切れた水面上のイトトンボ類, 回遊するかのように姿を現すオオヤマトンボ *Epophthalmia elegans* と豊かなトンボ池は得難い。

7月3日, 茨城町涸沼川左岸湿地帯。ヒヌマイトトンボの発生盛期であり, 3.11での堤防復旧工事が完了し, 沿岸域のヨシ群落の植生構成の部分的な変化, 沿岸からの流入水路の埋没, 河床の変動などで, 往年のヒヌマイトトンボ幼虫生息の浅い水溜まりが減ってしまったが, 新たに出現したであろう浅い水溜まりに幼虫を探って発見し, その地周辺での成虫を数えることができた。左岸一帯, 6月19日から9月9日の1♀まで, 例年になく長期間の発生を視認したが, 1個体の成虫の寿命が伸びたのではなく, 幼虫の生育条件の差による, 羽化の遅れた個体の記録とみたい。湖岸にも成虫は飛んだ。

8月1日, 霞ヶ浦土浦入の湖上において, ウチワヤンマ *Sinictinogomphus clavatus* の湖上飛翔行動を16個体観察できた。湖上での摂食行動であり, 晴天の午前中では配偶行動は見られなかった。しかし, オオヤマトンボ, ギンヤンマ *Anax parthenope julius* などの姿を目撃していない。湖畔の水路にはコシアキトンボがいた。

9月6日, 日立市赤羽緑地。この地の人工池の岸のヨシ・ガマ類の生育は良く, ギンヤンマ類の幼虫の姿が目視できる。午前中, 時々晴れの条件。交尾中のギンヤンマが飛んで産卵行動に移り, そうした行動を続けた8対を記録できた。また, 芝生の緑地上をパトロールするかのように低く飛ぶオスを6例見て, この地はギンヤンマ優占の水域とみた。初夏にはクロスジギンヤンマ *Anax nigrofasciatus nigrofasciatus*, そして秋にはマダラヤンマ *Aeschna mixta soneharai* などが飛ぶヤンマ類の好生息地をアメリカザリガニの王国にしたくない。

10月4日, 笠間市愛宕山から難台山の山麓。日本の秋を代表する生きもののひとつ, アキアカネは盛夏は涼しい山地の森林などで暮らし, 仲秋には低地へ戻り, 成熟し, 産卵して死ぬというトンボ類にあつては異例の生活史が注目を浴びているが, 1個

体が羽化した水域に戻るのか否かの実証は至難。それでも涸沼水系に見られるアキアカネの挙動を求めて, トンボ科成虫を捕らえてみる。山間の開けた草地では, アキアカネが優勢で次いでノシメトンボ *Sympetrum infuscatum*, ナツアカネ *S. darwinianum* となり, 路傍にマユタテアカネ *S. eroticum eroticum*, マイコアカネ *S. kunkeli* がいて, ミヤマアカネ *S. pedemontanum elatum* は愛宕山麓の湿地, ヒメアカネ *S. parvulum* は山麓の溜池となる。昨年は記録できたコノシメトンボ *S. baccha matutinum*, ネキトンボ *S. speciosum* は不在。標高500mほどの山地では, トンボ科昆虫の垂直分布の把握は容易ではない。道祖神峠では, 老熟したオニヤンマ♂を捕らえ, 林床にオオアオイトトンボ *Lestes temporalis* を複数見たり, ホソミオツネトンボ *Indolestes peregrinus* が止まるときに上下させる腹部の妙なる動きを動画に映したりもした。

10月28日, 那珂郡東海村松海岸の砂防林周辺の砂丘に立つセイタカアワダチソウなどの群落に集合する海辺のアキアカネの日周活動を記録した。成熟個体には朝から1日中, 独占的に静止する植物体を決定しているものとそうではなく距離にしては20mも離れた植物体の間を飛び回るものがあり, こうした個体の交互の飛翔空間内に松林の縁からの個体は入り難いことなど, 空間占有の在り方のいくつかの様式に気づいた。強い海風の為せる技とみてよいのか。もう, この時期にはウスバキトンボ *Pantala flavescens* はいない。

11月1日, つくば市筑波実験植物園。晩秋, 園内の池のアオイトトンボ類の行動の記録。園内, 座して4時間。オオアオイトトンボ2♂1♀, ホソミオツネトンボ1♂1♀, アキアカネ, ノシメトンボ。林床の下草に静止するオオアオイトトンボ, 落葉樹の池上1~2mほどの日当たりの枝先に静止するホソミオツネトンボと明確に静止位置に差がある。摂食行動はホソミオツネトンボは活発とみたが, 成虫越冬のための食欲なのだろうか。餌は微少なユスリカ類とアブラムシ類の飛翔個体だ。

1月6日, 小美玉市寺崎。台地上の栗林内で越冬中のホソミオツネトンボの個体数調査の結果, 12♂ 9♀を数えた。クリの木の枝先の細い枝に6本肢でしっかりと静止している個体に観察者が10cm

の距離まで接近すると、トンボが腹部の中央からいくぶんか尾端寄りを起点として直線状であった腹部をいくぶんか下方にへの字状に曲折する。視覚か皮膚感覚か、ゆっくりではあるが、気温 -2℃でも反応する。この地の栗林内のホソミオツネントンボ集団越冬については、未解決の事項も多いが、小美玉生物の会有志によって経年的にも記録が残されていて貴重である。現在、近似種オツネントンボは、県内では絶滅のおそれのあるトンボの一種となり、安

定した越冬地の記録報告には接していない。さらに越冬性のイトトンボ科ホソミイトトンボ *Aciagrion migratum* の探索も、利根川左岸帯や圏央道工事周辺の池沼、湿地、小河川を調査してきたが発見できていない。

2014 年のトンボ目昆虫の文献

P. 21 にまとめて記載する。

トンボ目

渡辺 健

2014 年のトンボ目昆虫の動向

本年も春から県央地域を主とした複数の観察地を定期的に巡回し、トンボ目昆虫の動向を調査した。

4 月下旬から5月上旬には城里町赤沢林道～常陸大宮市塩子にかけての渓流域でムカシトンボ *Epiophlebia superstes*, ムカシヤンマ *Tanypteryx pryeri*, クロサナエ *Davidius fujiama*, ニホンカワトンボ *Mnais costalis* などを観察することができた。ムカシトンボやムカシヤンマの発生は毎年比較的安定しているが、ダビドサナエ *Davidius nanus*, ヒメクロサナエ *Lanthus fujiacus*, ヒメサナエ *Sinogomphus flavolimbatus*, クロサナエなどの小型サナエトンボ類の個体数は少ない。

5 月に発生の最盛期を迎えるトラフトンボ *Epitheca marginata* は、常陸太田市栗原、那珂市鴻巣、那珂市北酒出、那珂市大内、水戸市全隈町、城里町塩子など各地の池沼で観察することが出来た。なかでも水戸市全隈町では池内で♂個体が活発にパトロール飛行をしており、多いときでは8頭程度の♂が同時にパトロールし、壮観だった。♀を見つけた♂は直ちに連結して飛び去ってしまうため、♂のパトロール活動を観察できたのは、午前中の限られた時間であった。また、本種の未熟個体が水辺から離れた水戸市森林公園内の林道空間で摂食活動しているのも観察している。城里町塩子の溜池では、近年減少が著しいヨツボシトンボ *Libellula quadrimaculata asahinai* と本種との混生を確認できた。

常陸太田市を流れる山田川のキイロヤマトンボ *Macromia daimoji* には大きな変動はなく、5月下旬から6月にかけて複数の飛翔個体を観察した。また、近似種コヤマトンボ *M. amphigena amphigena* も常陸大宮市下伊勢畑および常陸太田市の山田川流域から上高倉の武生林道にかけて複数目撃している。この時期、山田川流域ではアオハダトンボ *Calopteryx japonica*, ホンサナエ *Shaogomphus*

postocularis の成熟個体ならびにヒメサナエ、オジロサナエ *Stylogomphus suzukii*, コオニヤンマ *Sieboldius albardae* の羽化を観察している。生息が局限されている山地性の小型サナエトンボ、モイワサナエ *Davidius moiwanus moiwanus* は常陸太田市(旧里美村)で確認できたが、個体数は極めて少ない。

夏季に出現するヤンマ類ではギンヤンマ *Anax parthenope julius* が最も広く分布し、個体数も多い。

ヤブヤンマ *Polycanthagyna melanictera* やマルタヤンマ *Anaciaeschna martini* は、大洗町、水戸市、那珂市などの溜池や緑地公園で黄昏飛翔を観察できた。平地から中山間にかけて広く分布するオオルリボシヤンマ *Aeshna crenata* より生息域が局限される近似種で、山地性のルリボシヤンマ *A. juncea juncea* は、日立市や城里町(矢ノ倉 奨, 私信)で採集された。また、近年各地で減少著しいカトリヤンマ *Gynacantha japonica* は、那珂市、水戸市、日立市(旧十王町)、石岡市(旧八郷町)で確認できた。幸いなことに那珂市では比較的個体数が多い。

マダラヤンマ *Aeshna mixta soneharai* は新たな生息地として日立市(旧十王町)を加え、既産地である大洗町、水戸市、那珂市では継続的な発生を確認した。

アカネ類では、本県では最も普通に見られるナツアカネ *Sympetrum darwinianum* とノシメトンボ *S. infuscatum* の個体数は、本年は全体的に少ないように感じられ、アキアカネ *S. frequens* は平地に戻ってくる時期がやや遅かったように思う。一方、リスアカネ *S. risi risi* は、新たな生息地として日立市(旧十王町)と常陸太田市(旧里美村)を見出し、昨年報告した2013年の浚渫工事によりほとんどのトンボ目昆虫が失われた水戸市全隈の林間溜池でも本種の生息を確認できた。おそらく、近隣に生息していた個体が新しい環境に移動してきたものと考えられる。また、湿地性のアカネ類では、マイコアカネ *S. kunckeli* とマユタテアカネ *S. eroticum eroticum* は

比較的多くみられるものの、ヒメアカネ *S. parvulum* の生息地は著しく減少している。本年の調査では、ヒメアカネを城里町錫高野で確認した。

環境省レッドリストで絶滅危惧 I 類に指定されているコバネアオイトトンボ *Lestes japonicus* の生息地である那珂市鴻巣の文洞溜池では、池の改修工事と夏季の降雨不足によって、生息池に長期間水がなくなる状態が続いた。池の表土は乾いてひび割れし、長靴で歩くことができる状態であった。晩秋以降には台風等の多量の降雨によって水位は回復したが、この影響が次年度の本種の発生にどのように影響するのか、継続的な調査が必要である。また、過去に本種の採集記録がある日立市（旧十王町）の海岸沿いの池沼を調査したところ、近似種アオイトトンボ *L. sponsa* の生息を確認したものの、本種の姿を見ることはできなかった。この池沼は、2011 年の東日本大震災による津波の影響を大きく受けていると推察される。

昨年、水戸市の緑地公園でオナガサナエ *Meligomphus viridicostus* を採集・目撃したことを報告したが、筆者の本年の調査では再確認することはできなかった。しかし、同地や別の緑地公園で本種と思われる個体が目撃されている（軍司 平・疋田直之、私信）ため、さらなる継続調査が必要である。

本年の調査で特筆すべき事項は、城里町錫高野の休耕田で多くのモートンイトトンボ *Mortonagrion selenion* を確認したことである。湿地に足を踏み入れると、無数のモートンイトトンボが湧き出すように飛び出し、陽光を浴びての腹部がオレンジ色に輝き、大変美しく感動した。20 年以上前は普通に見られた光景であるが、近年では稀である。同地にはオゼイトトンボ *Coenagrion terue*、キイトトンボ *Ceriagrion melanurum*、ハッチョウトンボ *Nannophya pygmaea*、ハラビロトンボ *Lyriothemis pachygastra* などの近年減少著しい湿地性トンボ類も混生しており、大変貴重である。しかし、夏季には休耕田は猪の「ぬた場」となり、かなり荒れてしまった。今後、希少な湿地性トンボ類を保全するためには獣害防止対策を講ずる必要があるのだろうか。一方、那珂市大内の休耕田も休耕となって数年が経過し、モートンイトトンボやハラビロトンボが発生するようになった。これらの休耕田に手を入れなければ数年後に

ガマやヨシが生い茂るようになり、ハンノキ等の灌木が育つと土壌は急速に乾燥し、湿地性のトンボ類は姿を消してしまうことは既に明らかである。将来的に湿地環境や生物多様性を保全するためには、子供達へのビオトープ教育と実践が不可欠である。ただし、ビオトープの維持管理には多大な労力、時間と資金ならびに地域的な理解や合意が必要であることは言うまでもなく、実践するのは非常に困難である。

ビオトープにおける生物相の変化と管理手法について以下の報告がある。阿部ら (2014) は、水戸市（旧内原町）の鯉淵学園構内に 2004 年に造成された人工湿地とビオトープを用い、合併浄化槽処理水の浄化機能と昆虫の生息地としてこのビオトープの機能を評価している。2006～2011 年にトンボ目成虫および水面・水中の水生昆虫（コウチュウ目およびカメムシ目、トンボ目幼虫）の調査を行い、トンボ目成虫はホンサナエ、キイロサナエ *Asiagomphus pryeri*、エゾトンボ *Somatochlora viridiaenea* などの注目すべき種を含め、合計 9 科 31 種が確認され、水面・水中の水生昆虫は少なくとも 41 種が確認されている。しかし、これらの昆虫の種数は、2007 年までは増加したが、2008 年には減少した。この減少の原因として、池や水路の底に泥が堆積し水生昆虫にとっての生息環境が悪化したことが考えられたため、底土の浚渫を行ったところ、浚渫後には、これらの昆虫の種数は回復したという。本報では実験結果を踏まえてビオトープを造成および維持管理するための条件等について提言している。これは県内で実施されたビオトープの貴重な実験であり、今後、ビオトープの取り組みには是非参考にしたい。

本年、重点種に位置づけて調査したものの、生息を確認できなかった種は、オオセスジイトトンボ *Paracercion plagiosum*、ネアカヨシヤンマ *Aeschnophlebia anisoptera*、ハネビロエゾトンボ *Somatochlora clavata*、キトンボ *Sympetrum croceolum* などがあげられる。

引用文献および 2014 年のトンボ目昆虫の文献

2014 年に印刷されたトンボ目昆虫に関する文献は、以下の通りである。

- 阿部 薫・駒田充生・大熊哲仁・荒城雅昭・田中幸一・楠本好延・安田幸司. 2014. 人工湿地の水質浄化機能の評価ならびにビオトープにおける生物相の変化と管理手法の検討. 農環研報, 33: 1-24.
- 軍司 平. 2014a. 水戸市でリスアカネ・コノシメトンボを採集. るりぼし, (43): 95.
- 軍司 平. 2014b. 水戸市全隈町でキイロサナエを採集. るりぼし, (43): 96.
- 廣瀬 誠. 2014a. 逸話にならない蟲の午後. 茨城生物, (34): 18-25.
- 廣瀬 誠. 2014b. 茨城のトンボを追って. 136 pp., 緑の手帖社.
- 廣瀬 誠. 2014c. トンボ池を作ってみよう. 26 pp., 緑の手帖社.
- 一家伴安. 2014a. つくば市におけるアオサナエの記録. るりぼし, (43): 94.
- 一家伴安. 2014b. つくば市でアオハダトンボを確認. るりぼし, (43): 95.
- 荻部治紀. 2014. トンボ類における最近の外来種問題. 昆虫と自然, 49(7): 16-19.
- ミュージアムパーク茨城県自然博物館. 2014. 地球再発見 いばらき自然ものがたり. 317 pp., 茨城新聞社.
- 田上公恵(編). 2014. 生き物調査っておもしろい! 花室川と高校生と環境教育. 314 pp., STEP.
- 渡辺 守. 2015. トンボの生態学. 260 pp., 東京大学出版.

バッタ目

井上 尚武

2014 年のバッタ目昆虫の動向

1. 注目すべき種について

マツムシ科 Eneopteridae

カヤコオロギ *Euscyrthus japonicus* は茨城県版レッドデータブックにおいて希少種 (R) とされており、生息地が限定されている。ひたちなか市中根の虎塚古墳の生息地については、井上 (2002a) が報告したが、その後の調査を実施していなかった。そこで 2014 年 9 月 29 日に再調査したが、残念ながら発見できなかった。前回の調査から 13 年ほど経過する間に、生息地の古墳の上の一部にツツジが植栽され、またクヌギやスギなどの樹木が生長して照度が減少した。その結果、本種の生息地であるチガヤ群落が大幅に減少し、生息に適さない環境になってしまったようである。この場所は有名な古墳ということで定期的な草刈りなどの管理を実施していたが、管理者側の判断なのか、予算削減の影響なのか、樹木の生長による昆虫への影響までは配慮がなかったようである。しかしほかのバッタ類 (直翅系昆虫) ではエンマコオロギ *Teleogryllus emma*、モリオカメコオロギ *Loxoblemmus sylvestris*、マダラスズ *Dianemobius nigrofasciatus*、ショウリョウバッタ *Acrida cinerea*、オンブバッタ *Atractomorpha lata*、ヤブキリ *Tettigonia orientalis* (鳴き声 - 長鳴き型) などが前回と変わらず確認できたので (主に目視による)、本種のみ発見できなかったのは、植生の状態の微妙な変化が影響したものと判断された。

本種のもう 1 カ所の生息地である常陸太田市では、以下のようにわずかに生息が確認できた。

2♂ 2♀, 11. IX. 2014, 常陸太田市赤土, 井上尚武。

ヒバリモドキ科 Trigonidiidae

ウスグモスズ *Metiochodes genji* は今まで坂東市、つくば市、ひたちなか市、鹿嶋市から記録されてい

たが、神栖市でも確認した。

1♀ (写真), 15. VIII. 2014, 神栖市東深芝, 井上尚武。

広く県内を調査すれば相当分布記録が増えるであろう。なお県北地区では常陸太田市新宿町で乗用車にとまっていた幼虫を目撃しているが、すでに生息が確認されている場所に居住する筆者が使用している乗用車なので、単に車のボディについたまま移動した可能性もある。定着しているかどうか今後確認が必要である。

バッタ科 Acrididae

ハネナガイナゴ *Oxya japonica* は、本県や福島県南部では山間地域を中心に、一部市街地の中の水田などにも広範囲に生息していることが明らかになってきたが、2014 年は以下のように県央や県南地区でも確認した。

1♂, 9. VIII. 2014, 常陸太田市町屋町地徳, 井上尚武; 2♀, 29. VII. 2014, 那珂市額田北郷・久慈川河川敷, 井上尚武; 1♀, 11. VIII. 2014, 茨城町下石崎長洲, 井上尚武; 3♀, 23. IX. 2014, 龍ヶ崎市半田, 井上尚武。

上記の記録のうち、常陸太田市と茨城町はコンビニエンスストアに飛来した個体である。那珂市と龍ヶ崎市の生息地は水田付近に隣接していた。現在水田に施用されるネオニコチノイド系農薬の生態系に与える影響が懸念されているが、イナゴ類に対してどのような影響があるのか、興味もたれる。

2. 茨城県の鳴く虫を含むバッタ類の現況

筆者は茨城県の鳴く虫の現況について、茨城生物の会定例の「生きもの談話会」において話をする機会があった (2015 年 2 月 15 日, 茨城県立図書館)。その際配付した資料をもとに加除訂正した内容を以下に紹介する。

(1) 県産の種数について

茨城県産の鳴く虫として 58 種ほど、バッタ目として 108 種（2014 年現在、要検討種を含む）となるが、この中で要検討種とは、アリツカコオロギ 2 種（仮同定）とナギサスズ 2 種である。従来のナギサスズはすでに記録があるが、2014 年 8 月にウスモンナギサスズ *Caconemobius takarai* と思われる個体をひたちなか市で目撃（写真撮影）した。この時デジタル撮影した写真は、後日データ転送の際にカードリーダーの不具合により壊してしまった。今後再調査して標本を得てから報告したい。

なお、バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑（日本直翅類学会、2006）の都道府県別分布表において掲載されなかった種で現在生息が確認されている種は、要検討種を除くと、セスジササキリモドキ *Xiphidiopsis subpunctata*、ウスグモスズ、イナゴモドキ *Mecostethus parapleurus*、カワラバッタ *Eusphingonotus japonicus* の 4 種である。よって茨城県産のバッタ目は確実な数字としては 106 種となる。

この中でカワラバッタは上記の大図鑑発行前に茨城県からすでに採集記録があったが（井上、2002b）、諸事情により分布表から見落としていたものである。このため茨城県からはカワラバッタが未記録であるという誤解を関係者に与えてしまったことは、この分布表が筆者の作成によるものではなかったとは言え、共著者の一人としてお詫びしたい。

（2）バッタ相の特徴

- ・本県には高山はないが、海岸線が長く海浜性の種が見られる（ヤマトマダラバッタ *Epacromius japonicus*、ハマスズ *Dianemobius csikii* など）。
- ・平野の湿原などに遺存的な希少種が生息する（オオクササキ *Ruspolia* sp., カスミササキ *Orchelimum kasumigauraense*, リュウキュウチビスズ *Pteronemobius sulfurariae* など）

- ・太平洋側の北限種として、オオクササキ、クロツヤコオロギ *Phonarellus ritsemae*、コガタコオロギ *Velarifictorus ornatus*、セスジササキリモドキなどが生息する。

- ・北限に近い少ない種としてとしてクツワムシ *Mecopoda niponensis*、マツムシ *Xenogryllus marmoratus*（福島県からは文献記録のみで産地不詳）、スズムシ *Homoeogryllus japonicus* など。ただし、クツワムシは東日本全体でも少ない。

- ・レッドデータ種ではクロツヤコオロギの生息が確認できなくなり、クツワムシも激減している。原因として農業形態の変化や燃料革命による里山の管理放棄などが考えられる。開発によってオオクササキなどが減少している。

- ・外来種である、アオマツムシ、ウスグモスズが非常に多くなった。

- ・そこになぜ分布するのか？説明困難なセスジササキリモドキが千葉県を飛び越えて県北の一部に比較的多産する。

引用文献

- 井上尚武. 2002a. ひたちなか市・虎塚古墳の直翅系昆虫. おけら, (61): 31-32.
- 井上尚武. 2002b. 茨城県版レッドデータブックに加えるべき種・カワラバッタ. おけら, (61): 70-77.
- 日本直翅類学会編. 2006. バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑. 687 pp., 北海道大学出版会.

2014 年のバッタ目昆虫の文献

2014 年に印刷されたバッタ目昆虫に関わる文献は、現在確認していないが、もし見落としの文献があれば御教示をお願いしたい。

カメムシ目 (カメムシ類)

成田 行弘

2014 年のカメムシ類昆虫の動向

2014 年は、水戸市の動物相調査に関わったこともあり、例年以上に筆者の住む水戸市域を調査する機会が多かった。また、おもに、水戸市近郊から県西のカメムシ類の調査とともに、昨年に続き、調査の必要性を感じている海岸線での観察を行った。これらの調査の概要とともに、絶滅が危惧されるため継続的に調査を続けているイシハラカメムシ調査の結果をまとめることで 2014 年の報告としたい。

1. 水戸市域周辺のシマアメンボについて

シマアメンボ *Metrocoris histrio* は、湧水やその周囲を主な生息場所とするアメンボ科の一種で、一般に知られるアメンボ類のように、その体形が細長い棒状ではないこと、さらに小型であることから人目につきにくいアメンボ類で、自然観察会などにおいてその姿を目の前にして説明しても、参加者の目にとまりにくい種である。水戸市は、標高 30 m 程の台地と 5 m ほどの低地からなり、台地の周囲には、一般に「水戸層」と呼ばれる不透水層が存在する。そのため、台地の周囲には大小の湧水が発達することから、今までの調査、観察の結果からも、本種の生息に適した環境は多く存在し、個体数はともかく、生息場所の数としてはアメンボ類中最も多くの産地があるものと考えていた。

2014 年は、先に述べたように、市内の昆虫調査の機会を与えられたこともありその調査の範囲を越え、本種の分布の状況を調べてみることにした。調査結果は、とりまとめのうえ、しかるべき報告を行う予定であるが、出現の頻度は高いものではなかった。この原因は、土木的な工事によるなどの産地環境の消滅や水量の減少といったことばかりではないように思われる。

なお、調査日については、筆者の日常的な生活のなかの、折にふれてのちょっとした目視での観察も

行っているため、別に提出した「調査日一覧」に含まれない記録も少なくないことを付記しておく。

2. 海浜部のカメムシ類について

本県の海岸線について日立市から鉾田市までのいくつかの、砂浜に続く後背地の植物が生育する砂浜地、あるいは、草原的な環境を調査した。調査は、フライ調理の際に、天ぷらカスをすくう「カス揚げ」と呼ばれる道具により、海浜植物の根際の砂をすくって行った。一般には、土壌動物調査用の網目のサイズが異なる「篩 (ふるい)」を利用するなどすることが理想的であるかもしれないが、昆虫類の調査には「カス揚げ」で十分であると思われる。

ツチカメムシ科をはじめ、未同定のものも多く、十分なものとはならないが、今年度の調査地点と得られた代表的なカメムシ 2 種を報告する。変容する本県の海岸環境の記録のため、次年度以降も調査を行ってきたい。

(1) 調査日と調査地点

9 月 2 日 日立市：小木津、会瀬。

東海村：村松。

ひたちなか市：阿字ヶ浦。

9 月 27 日 鉾田市：冷水、滝浜、別所釜。

(2) 海浜部で見られた主な種

1. ヒメマダラナガカメムシ

Graptostethus servus (Fabricius, 1787)

調査地中、ヒルガオが生育していれば、その群落の大小に関わらず確認することができた。昨年度は見られなかった、県中・南部である冷水、滝浜などの海岸でも姿が見ることができた。

2. ヒメトゲヘリカメムシ

Coriomeris scabricornis (Panzer, 1809)

以前の和名は、「ヒメヘリカメムシ」が用いられ

ていたが、近年「ヒメトゲヘリカメムシ」が用いられるようになった。本県でこの和名を充てるのは初めてであるかも知れない。内陸部で本種の姿を見る機会は少ないが、海浜部ではそう稀でなく姿がみられた。食草は不明だが、乾燥した場所を好むと思われる。

3. イシハラカメムシの継続調査の結果について

城里町の御前山周辺のイシハラカメムシ*Brachynema ishiharai*については、本県において絶滅が危惧される種として注目してきたが、2014年度も姿を見ることができなかった。

調査は、寄主植物であるミツバウツギの花や葉のスケーピングによっている。ネガティブデータであるが、調査地を報告しておきたい。本種が再発見できないことは、筆者の調査能力の不足によるものであればと思っている。

(1) 調査日と調査地

4月25日、9月7日 城里町光戸ー相川ー桧山ー長倉。

5月3日、9月15日 常陸大宮市高部ー桧沢ー小瀬。

5月25日 石岡市上曽ー湯袋ー小幡。

2014年のカメムシ目昆虫に関する文献

廣瀬 誠. 2014. 逸話にならない蟲の午後. 茨城生物, (34): 18-25.

櫛井優志. 2014. タガメ *Lethocerus deyrollei* の生息環境と飼育観察実験 (1). 昆虫と自然, 49(11): 29-32.

櫛井優志. 2014. タガメ *Lethocerus deyrollei* の生息環境と飼育観察実験 (2). 昆虫と自然, 49(12): 32-34. (茨城県内、栃木県内でタガメの調査、孵化の観察)

ミュージアムパーク茨城県自然博物館. 2014. 地球再発見 いばらき自然ものがたり. 317 pp., 茨城新聞社.

渡辺 健. 2014. 水戸市でクマゼミの鳴き声を聞く. るりぼし, (43): 96.

カメムシ目 (アブラムシ類)

松本 嘉幸

2014 年のアブラムシ類昆虫の動向

本報告は筆者が 2014 年に採集した茨城県産のアブラムシから、プレパラート標本にし、同定が完了した 2 種を報告する。リストでは、採集地、採集年月日、寄主植物および寄生していた部位の順に示した。胎生雌虫でない場合にはそのモルフも示し、簡単な生態的な記述を加えた。また、今回は本会の廣瀬誠氏のお勧めもあり、中間的な段階であるが松本 (2008b ~ 2015) で発表したものを県内産の目録とした。寄主植物の同定については千葉県立中央博物館の大野啓一博士の手を煩わせた。お礼申し上げる。

アブラムシ科 Aphididae

アブラムシ亜科 Aphidinae

ヒゲナガアブラムシ族 Macrosiphini

1. ナナカマドハマキアブラムシ

Sorbaphis chaetosiphon Shaposhnikov, 1950

北茨城市関本町・小川亀谷池湿原, 27. VII. 2014, オタカラコウ葉柄基部。

本種は葉柄にアリが蟻道を作り、その中でアリと共生しながら生活している。幼虫は黄緑色のものからそこに赤味を帯びたものまでである。成虫の体色は褐色である。昨年、同所でオタカラコウの葉裏にみられたオタカラコウヒゲナガアブラムシは確認できなかった。

ヒラタアブラムシ亜科 Hormaphidinae

2. ヤノイスアブラムシ

Neothoracaphis yanonis (Matsumura, 1917)

土浦市・穴塚大池, 15. XII. 2014, コナラ葉裏。

本種はこの時期には有翅型の産性虫 (一次寄生にもどって有性世代の雄と卵生雌を産む雌虫) としてイスノキに戻るはずであるが、この地では移住せずに、コナラで冬越しをしていた。本県の南部ではコナラ

の葉裏に本種の有翅型の幼虫や有翅型の成虫がみられることが多く、この傾向は千葉県全域、東京都東部、神奈川東部にもある。アブラムシが見られたコナラでは葉に緑色の部分が存在していたのでそのコロニーは不完全生活環を継続できるが、この植物は落葉広葉樹であるので、このまま春を迎えるとは思われない。たぶん、多くの個体が死滅する中でわずかに生き残ったコロニーから、産性虫が現れ、植栽されたイスノキで世代を継承するのであろう。

＜茨城県産アブラムシ目録＞

8 亜科, 112 種をアルファベット順に列挙した。

オオアブラムシ亜科 Lachninae

1. クリオオアブラムシ

Lachnus tropicalis (van der Goot, 1916)

日立市水木町・泉神社／鉾田市二重作 (松本, 2009); 土浦市穴塚 (松本, 2010)。

2. ブナクチナガオオアブラムシ

Stomaphis fagi Takahashi, 1960

大子町・八溝山 (松本, 2009); つくば市・筑波山 (松本, 2011)。

3. ヤノクチナガオオアブラムシ

Stomaphis yanonis Takahashi, 1918

土浦市穴塚 (松本, 2010)。

アブラムシ亜科 Aphidinae

アブラムシ族 Aphidini

4. サルトリイバラアブラムシ

Aleurosiphon smilacifoliae (Takahashi, 1921)

鉾田市二重作 (松本, 2009); 土浦市穴塚 (松本, 2010)。

5. キンミズヒキフタマタアブラムシ

Aphis argrimoniae (Shinji, 1941)

北茨城市華川町小豆畑 (松本, 2015)。

6. クサギアブラムシ

- Aphis clerodendri clerodendri* Matsumura, 1917
石岡市小幡・広根場林道 (松本, 2009).
7. ヤナギアブラムシ
Aphis farinose yanagicola Matsumura, 1917
太子町上野宮・寒沢 (松本, 2009).
8. フキアブラムシ
Aphis fukii Shinji, 1922
太子町上野宮・寒沢 (松本, 2009).
9. キツタミドリアブラムシ
Aphis hederiphaga Takahashi, 1966
石岡市上曽 (松本, 2009).
10. ヨモギハアブラムシ
Aphis kurosawai Takahashi, 1921
土浦市穴塚 (松本, 2010).
11. ユキヤナギアブラムシ
Aphis spiraeicola Patch, 1914
ひたちなか市高野／鹿嶋市中 (松本, 2009).
12. タンポポアブラムシ
Aphis taraxacicola (Börner, 1940)
石岡市小幡・広根場林道 (松本, 2009).
13. ヨモギクダナシアブラムシ
Cryptosiphum artemisiae Buckton, 1879
常陸太田市宮本 (松本, 2008b).
14. タケノアブラムシ
Melanaphis bambusae (Fullaway, 1910)
つくば市観音台 (松本, 2011).
15. オカボアカアブラムシ
Rhopalosiphum rufiabdominale (Sasaki, 1899)
坂東市大崎 (松本, 2012).
16. コミカンアブラムシ
Toxoptera aurantii aurantii (Boyer de Fonscolombe, 1841)
石岡市小幡・広根場林道／太子町上野宮・寒沢 (松本, 2009); つくば市観音台 (松本, 2011).
17. ミカンクロアブラムシ
Toxoptera citricida (Kirkaldy, 1907)
城里町御前山・赤沢林道 (松本, 2009).
18. ハゼアブラムシ
Toxoptera odinae (van der Goot, 1917)
城里町御前山・赤沢林道 (松本, 2009); 石岡市小幡・広根場林道／土浦市穴塚 (松本, 2010).

ヒゲナガアブラムシ族 **Macrosiphini**

19. タデヨツオヒゲナガアブラムシ
Akkaia polygoni Takahashi, 1919
鹿嶋市中 (松本, 2009); 土浦市穴塚 (松本, 2010).
20. タイワンヨツオヒゲナガアブラムシ
Akkaia taiwana Takahashi, 1933
鹿嶋市中 (松本, 2009).
21. カキドウシヒゲナガアブラムシ
Aulacorthum glechomae Takahashi, 1965
常陸太田市町屋町造宗 (松本, 2008b); 石岡市上曽 (松本, 2009).
22. イボタヒゲナガアブラムシ
Aulacorthum ibotum (Essig et Kuwana, 1918)
常陸太田市町屋町造宗／高萩市中戸川米平 (松本, 2008b); 太子町上郷・赤岡沢林道 (松本, 2009); 土浦市穴塚 (松本, 2010).
23. ヤマブキヒゲナガアブラムシ
Aulacorthum kerriae (Shinji, 1930)
太子町上郷・赤岡沢林道 (松本, 2009); 北茨城市華川町小豆畑 (松本, 2015).
24. オタカラコウヒゲナガアブラムシ
Aulacorthum ligularicola Lee, 2002
北茨城市関本町小川 (松本, 2010, 2011, 2013, 2015).
25. ニワトコヒゲナガアブラムシ
Aulacorthum magnolia (Essig et Kuwana, 1918)
太子町・八溝山／鉾田市二重作 (松本, 2009); 鉾田市二重作 (松本, 2010); 北茨城市華川町小豆畑 (松本, 2015).
26. アブラチャンコブアブラムシ
Aulacorthum muradachi (Shinji, 1928)
城里町御前山・赤沢林道 (松本, 2009).
27. ヘクソカズラヒゲナガアブラムシ
Aulacorthum nipponicum (Essig et Kuwana, 1918)
東海村須和間／日立市東河内・玉簾寺／石岡市小幡・広根場林道／桜川市真壁町椎尾・薬王院 (松本, 2008b); 太子町上郷・赤岡沢林道 (松本, 2009).
28. ジャガイモヒゲナガアブラムシ
Aulacorthum solani (Kaltenbach, 1843)
日立市金沢町・金沢川上流 (松本, 2009); 北茨城市華川町花園 (松本, 2013); 北茨城市華川町小

豆畑（松本，2015）.

29. アザミクギケアブラムシ

Capitophorus cirsiiphagus Takahashi, 1961

鹿嶋市中（松本，2009）；石岡市小幡・広根場林道（松本，2010）.

30. ゴボウクギケアブラムシ

Capitophorus elaeagni (del Guercio, 1894)

常陸太田市町屋町（松本，2008b）.

31. イグサコブアブラムシ

Carolinaia obscura (H.R.L., 1965)

石岡市小幡・広根場林道／太子町上野寒沢（松本，2009）；土浦市・宍塚大池（松本，2010）.

32. シシウドネフタオアブラムシ

Cavariella heraclei Takahashi, 1961

常陸太田市里川町岡見（松本，2009）.

33. ヨモギクビレアブラムシ

Coloradoa campestrella Ossiannilsson, 1959

日立市水木町・泉神社（松本，2009）.

34. キツリフネコブアブラムシ

Eumyzus gallicola Takahashi, 1963

常陸太田市町屋町造宗／北茨城市関本町小川（松本，2008b）；北茨城市華川町花園（松本，2012）.

35. ホウセンカコブアブラムシ

Eumyzus impatiensae (Shinji, 1924)

常陸太田市町屋町造宗／北茨城市関本町小川（松本，2008b）；日立市金沢町・金沢川上流（松本，2009）；北茨城市華川町花園（松本，2012）；北茨城市草川町中妻（松本，2015）.

36. ツリフネソウスナヨセアブラムシ

Hydranaphis impatiens Shinji, 1922

高萩市下君田（松本，2009）.

37. ムカゴイラクサスナヨセアブラムシ

Hydranaphis laportae Miyazaki, 1971

高萩市下君田（松本，2009）.

38. ノゲシフクレアブラムシ

Hyperomyzus carduellinus (Theobald, 1915)

つくば市観音台（松本，2011）；常総市・菅生沼周辺（松本，2012）.

39. チシャミドリアブラムシ

Hyperomyzus lactucae (Linnaeus, 1758)

美浦村信太（松本，2008b）.

40. キツリフネヒゲナガアブラムシ

Impatientinum balsamines (Kaltenbach, 1862)

高萩市大能（松本，2008b）.

41. ホウセンカヒゲナガアブラムシ

Impatientinum impatiens (Shinji, 1922)

高萩市大能；常陸太田市町屋町（松本，2008b）；日立市金沢町・金沢川上流（松本，2009）；北茨城市関本町小川（松本，2010）；北茨城市華川町花園（松本，2012）；北茨城市関本町小川（松本，2013）；北茨城市草川町中妻（松本，2015）.

42. キスゲフクレアブラムシ

Indomegoura indica (van der Goot, 1916)

城里町御前山・赤沢林道（松本，2009）；土浦市宍塚（松本，2010）.

43. ミツバウツギフクレアブラムシ

Indomegoura nigrotibiae (Tao, 1963)

常総市・菅生沼周辺（松本，2012）.

44. アシボソヒゲナガアブラムシ

Kaochiaoja arthraxonis (Takahashi, 1921)

北茨城市華川町・花園溪谷（松本，2012）.

45. イタドリオマルアブラムシ

Macchiatiella itadori (Shinji, 1924)

つくば市高野台（松本，2008b）；常陸太田市里川町岡見（松本，2009）；高萩市米平（松本，2010）；北茨城市華川町・花園溪谷（松本，2012）.

46. コモチシダコブアブラムシ

Macromyzus woodwardiae (Takahashi, 1921)

常陸大宮市下伊勢畑／石岡市上曾（松本，2009）；北茨城市華川町・花園溪谷（松本，2012,2013）；北茨城市小豆畑（松本，2013）.

47. ヨモギオナガヒメヒゲナガアブラムシ

Macrosiphoniella grandicauda Tak. et Moritsu, 1963

常陸太田市真弓町（松本，2008b）.

48. ヒコサンヒメヒゲナガアブラムシ

Macrosiphoniella hikosanensis Moritsu, 1949

日立市水木町・泉神社（松本，2009）.

49. キタヒメヒゲナガアブラムシ

Macrosiphoniella hokkaidensis Miyazaki, 1971

ひたちなか市高野（松本，2009）.

50. ヨモギヒメヒゲナガアブラムシ

Macrosiphonilla yomogicola (Matsumura, 1917)

高萩市大能；石岡市小幡・広根場林道（松本，2008b）；日立市金沢町・金沢川上流（松本，2009）；

北茨城市関本町小川（松本，2015）.

51. アオヒメヒゲナガアブラムシ

Macrosiphoniella yomogifoliae (Shinji, 1924)

常陸太田市真弓町（松本，2008b）；つくば市観音台（松本，2011）.

52. ボタンヅルヒゲナガアブラムシ

Macrosiphum clematifoliae Shinji, 1924

高萩市米平／石岡市小幡・広根場林道（松本，2010）.

53. イチゴマツムラアブラムシ

Matsumuraja rubi (Matsumura, 1918)

高萩市米平（松本，2010）.

54. イチゴハマツムラアブラムシ

Matsumuraja rubifoliae Takahashi, 1931

石岡市上曾／日立市金沢町・金沢川上流（松本，2009）.

55. カラムシコブアブラムシ

Myzus boehmeriae Takahashi, 1923

北茨城市華川町小豆畑（松本，2015）.

56. ワダンコブアブラムシ

Myzus lactucicola Takahashi, 1934

常陸太田市町屋町造宗／高萩市米平／高萩市大能／石岡市小幡・広根場林道（松本，2008b）；石岡市小幡・広根場林道（松本，2010）.

57. ミズコブアブラムシ

Myzus pileae Takahashi, 1965

石岡市小幡・広根場林道（松本，2010）；北茨城市華川町・花園溪谷（松本，2012）.

58. キキョウアブラムシ

Neomyzus codonopsis (Miyazaki, 1971)

大子町上郷・赤岡沢林道（松本，2009）.

59. カナムグライボアブラムシ

Phorodon japonensis Takahashi, 1965

つくば市観音台（松本，2011）；北茨城市華川町花園（松本，2012）.

60. ヨモギミドリクギケアブラムシ

Plectrotrichophorus glandulosus (Kaltenbach, 1846)

つくば市観音台（松本，2011）.

61. ウツギトックリアブラムシ

Rhopalosiphoninus deutzifoliae Shinji, 1924

常陸大宮市下伊勢畑（松本，2009）.

62. シナノキトックリアブラムシ

Rhopalosiphoninus tiliae (Matsumura, 1918)

常陸太田市里川町岡見（松本，2009）；北茨城市華川町・花園溪谷（松本，2012,2013）.

63. ハナウドチビクダアブラムシ

Semiaphis helaclei (Takahashi, 1921)

常陸太田市里川町岡見／日立市金沢町・金沢川上流（松本，2009）；土浦市宍塚（松本，2010）.

64. ワラビツメナシアブラムシ

Shinjia orientalis (Mordvilko, 1929)

北茨城市華川町花園（松本，2008b）.

65. ムギヒゲナガアブラムシ

Sitobion akebiae (Shinji, 1935)

常陸大宮市下伊勢畑／石岡市上曾（松本，2009）.

66. ヤマボウシヒゲナガアブラムシ

Sitobion cornifoliae (Shinji, 1924)

常陸太田市里川町岡見（松本，2009）.

67. イバラヒゲナガアブラムシ

Sitobion ibarae (Matsumura, 1917)

北茨城市華川町花園（松本，2008b）；土浦市・宍塚大池（松本，2010）.

68. ナナカマドハマキアブラムシ

Sorbaphis chaetosiphon Shaposhnikov, 1950

常陸太田市里川町岡見（松本，2009）；北茨城市関本町小川（松本，2010, 2012, 2013, 2015）.

69. チダケサシヒゲナガアブラムシ

Taiwanomyzus montanus (Takahashi, 1925)

大子町上野宮寒沢（松本，2009）；茨城市関本町小川（松本，2015）.

70. スイカズラヒゲナガアブラムシ

Trichosiphonaphis lonicerae (Uye, 1923)

那珂湊市平磯／つくば市高野台／高萩市中戸川米平／石岡市小幡・広根場林道（松本，2008b）；日立市金沢町・金沢川上流（松本，2009）；土浦市宍塚（松本，2010）.

71. タデイボアブラムシ

Trichosiphonaphis poligoni (van der Goot, 1917)

土浦市宍塚（松本，2010）.

72. タデノネケクダアブラムシ

Trichosiphonaphis polygonifoliae (Shinji, 1944)

土浦市宍塚（松本，2010）.

73. タデミドリイボアブラムシ

Trichosiphonaphis tade (Shinji, 1927)

- 土浦市宍塚（松本，2010）.
74. ヨモギキイロコブアブラムシ
Tuberocephalus artemisiae Shinji, 1929
石岡市小幡・広根場林道（松本，2008b）.
75. サクラコブアブラムシ
Tuberocephalus sasakii (Matsumoto, 1917)
石岡市小幡・広根場林道（松本，2008b）.
76. アマミヒゲナガアブラムシ
Uroleucon amamianum (Takahashi, 1930)
常陸太田市里川町岡見（松本，2009）.
77. タイワンヒゲナガアブラムシ
Uroleucon formosanum (Takahashi, 1921)
美浦村信太／牛久市結東町／つくば市高野台（松本，2008b）；土浦市宍塚（松本，2010）.
78. アザミオオヒゲナガアブラムシ
Uroleucon giganteum (Matsumura, 1918)
北茨城市華川町花園（松本，2008b）；日立市金沢町・金沢川上流（松本，2009）；高萩市中戸川米平（松本，2010）；北茨城市華川町・花園溪谷（松本，2012, 2013, 2015）.
79. ヤマシロギクヒゲナガアブラムシ
Uroleucon monticola (Takahashi, 1935)
石岡市上曽／鉾田市二重作（松本，2009）.
80. セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ
Uroleucon nigrotuberculatum (Olive, 1963)
鹿嶋市中／ひたちなか市高野／鉾田市二重作（松本，2009）；土浦市宍塚（松本，2010）.
81. コウゾリナヒゲナガアブラムシ
Uroleucon picridis (Fabricius, 1775)
常陸太田市里川町岡見（松本，2009）.
82. *Uroleucon* (*Uromelan*) sp.
日立市金沢町・金沢川上流（松本，2009）.
83. キブシアブラムシ
Xenosiphonaphis japonica Takahashi, 1961
常陸大宮市下伊勢畑（松本，2009）.
- マダラアブラムシ亜科 Drepanosiphinae**
84. カバヒゲナガブチアブラムシ
Betacallis odaiensis Takahashi, 1961
北茨城市関本町小川（松本，2011）.
85. オニグルミトゲアブラムシ
Dasyaphis rhusae (Shinji, 1922)
常陸太田市宮本町（松本，2008b）.
86. クヌギハアブラムシ
Diphyllaphis quercus (Takahashi, 1960)
土浦市宍塚（松本，2010）.
87. サワシバブチアブラムシ
Mesocallis sawashibae (Matsumura, 1917)
城里町御前山・赤沢林道／石岡市小幡・広根場林道（松本，2009）.
88. ブナハアブラムシ
Phyllaphis fagifoliae Takahashi, 1919
大子町・八溝山（松本，2009）；北茨城市関本町小川（松本，2011, 2012）.
89. ハシバミトゲマダラアブラムシ
Pterocallis montanus (Higuchi, 1972)
北茨城市関本町小川（松本，2011）.
90. ハンノキチビブチアブラムシ
Symydobius minutus Quednau et Shaposhnikov, 1988
土浦市宍塚（松本，2010）.
91. ササヒゲマダラアブラムシ
Takecallis sasae (Matsumura, 1917)
土浦市宍塚（松本，2010）.
92. ケヤキブチアブラムシ
Tinocallis zelkowae (Takahashi, 1919)
城里町御前山・赤沢林道（松本，2009）.
93. クリヒゲマダラアブラムシ
Tuberculatus kuricola Matsumura, 1917
鉾田町二重作（松本，2009）；つくば市観音台（松本，2011）.
94. チドリノキカマガタアブラムシ
Yamatocallis acericola Higuchi, 1974
城里町御前山・赤沢林道（松本，2009）.
- ケアブラムシ亜科 Chaitophorinae**
95. モミジニタイケアブラムシ
Periphyllus californiensis (Shinji, 1917)
城里町御前山・赤沢林道／常陸大宮市下伊勢畑／大子町上野宮寒沢（松本，2009）；北茨城市関本町小川（松本，2011, 2013）.
96. クワナニタイケアブラムシ
Periphyllus kuwanaii (Takahashi, 1919)
常陸大宮市下伊勢畑（松本，2009）.
97. イタヤミドリケアブラムシ

Periphyllus viridis viridis (Matsumura, 1919)
常陸大宮市下伊勢畑 (松本, 2009).

ケクダアブラムシ亜科 Greenideinae

98. オカジマケクダアブラムシ
Greenidea okajimai Suenaga, 1934
土浦市実塚 (松本, 2010).
99. コナラケクダアブラムシ
Greenidea prinicola Sugimoto, 2008
常陸太田市里川町岡見 (松本, 2009).
100. シイニセケクダアブラムシ
Mollitrichosiphum tenuicarpus (Okajima, 1908)
日立市水木町・泉神社 (松本, 2009).

ヒラタアブラムシ亜科 Hormaphidinae

101. ヨメナコナジラミモドキ
Aleurodaphis asteris Takahashi et Sorin, 1958
鉾田市二重作 (松本, 2009).
102. ヤブタバココナジラミモドキ
Aleurodaphis blumeae van der Goot, 1917
石岡市小幡・広根場林道 (松本, 2008b); 日立市
金沢町・金沢川上流 (松本, 2009).
103. エゴノネコアシアブラムシ
Ceratovacuna nekoashi (Sasaki, 1910)
常陸太田市里川町岡見 (松本, 2009).
104. ササガヤコナフキツノアブラムシ
Ceratovacuna sp. B
石岡市小幡・広根場林道 (松本, 2008b).
105. マンサクイボフシアブラムシ
Hamamelistes kagamii (Monzen, 1929)
北茨城市関本町小川 (松本, 2011).
106. ヤノイスアブラムシ
Neothoracaphis yanonis (Matsumura, 1917)
土浦市実塚 (松本, 2010).
107. ヒエツノアブラムシ
Pseudoregma panicola (Takahashi, 1921)
鉾田市二重作 (松本, 2009).

ミツアブラムシ亜科 Thelaxinae

108. サワグルミオオミツアブラムシ
Kurisakia ailantii sawagurumi Sorin, 1989
北茨城市関本町小川 (松本, 2011); 北茨城市華

川町花園 (松本, 2013).

ワタムシ亜科 Pemphiginae

109. センニンソウワタムシ
Colophina clematicola (Shinji, 1922)
ひたちなか市高野 (松本, 2009).
110. ナギナタコウジュワタムシ
Kaltenbachella elsholtziae (Shinji, 1936)
北茨城市関本町小川 (松本, 2008b).
111. ケヤキヒトスジワタムシ
Paracolopha morrisoni (Baker, 1919)
坂東市大崎 (松本, 2012).
112. スルデシロアブラムシ
Schlechtendalia chinensis (Bell, 1851)
高萩市米平 (松本, 2010).

<寄主植物目録>

松本, (2008b ~ 2015) に記したアブラムシの寄主植物 100 種をアイウエオ順に列挙し, その植物にみられるアブラムシを記した.

1. アオカラムシ: ジャガイモヒゲナガアブラムシ
2. アカショウマ: チダケサシヒゲナガアブラムシ
3. アキノキリンソウ: アマミヒゲナガアブラムシ
4. アキノノゲシ: タイワンヒゲナガアブラムシ
5. アケビ: ムギヒゲナガアブラムシ
6. アザミ属の 1 種: アザミクギケアブラムシ, アザミオオヒゲナガアブラムシ
7. アシボソ: エゴノネコアシアブラムシ, アシボソヒゲナガアブラムシ
8. アズマネザサ: ササヒゲマダラアブラムシ, タケノアブラムシ
9. アズマヤマアザミ: アザミオオヒゲナガアブラムシ
10. アブラチャン: アブラチャンコブアブラムシ
11. イグサ: イグサコブアブラムシ
12. イシミカワ: タデイボアブラムシ
13. イタドリ: イタドリオマルアブラムシ
14. イヌブナ: ブナハアブラムシ
15. イボタノキ: イボタヒゲナガアブラムシ
16. ウグイスカグラ: タデノネケクダアブラムシ
17. ウツギ: ウツギトックリアブラムシ

18. ウワミズザクラ：オカボアカアブラムシ
19. エノキ：ヤノクチナガオオアブラムシ
20. オタカラコウ：ナナカマドハマキアブラムシ，
オタカラコウヒゲナガアブラムシ
21. オトギリソウ：コムカンアブラムシ
22. オニイタヤ：クワナニタイケアブラムシ，イタ
ヤミドリケアブラムシ
23. オニグルミ：オニグルミトゲアブラムシ
24. オニタビラコ：ワダンコブアブラムシ
25. オヤブジラミ：ハナウドチビクダアブラムシ
26. カキドウシ：カキドウシヒゲナガアブラムシ
27. カナムグラ：カナムグライボアブラムシ
28. ガマズミ：ハゼアブラムシ
29. カラムシ：ジャガイモヒゲナガアブラムシ，カ
ラムシコブアブラムシ
30. キツリフネ：キツリフネヒゲナガアブラムシ，
キツリフネコブアブラムシ
31. キブシ：キブシアブラムシ
32. キンミズヒキ：キンミズヒキフタマタアブラム
シ
33. クサイチゴ：イチゴハマツムラアブラムシ
34. クサギ：クサギアブラムシ
35. クサノオウ：ジャガイモヒゲナガアブラムシ
36. クマイチゴ：イチゴマツムラアブラムシ
37. クマシデ：サワシバブチアブラムシ，ハシバミ
トゲマダラアブラムシ
38. クリ：クリオオアブラムシ，クリヒゲマダラア
ブラムシ
39. ケチヂミザサ：ヒエツノアブラムシ
40. ケヤキ：ケヤキブチアブラムシ，ケヤキヒトス
ジワタムシ
41. コウゾリナ：コウゾリナヒゲナガアブラムシ
42. コナラ：クヌギハアブラムシ，ヤノイスアブラ
ムシ
43. コハウチワカエデ：モミジニタイケアブラムシ
44. コボタンヅル：ボタンヅルヒゲナガアブラムシ
45. ゴンズイ：キスゲフクレアブラムシ，ミツバウ
ツギフクレアブラムシ
46. ササガヤ：ササガヤコナフキツノアブラムシ
47. サルトリイバラ：サルトリイバラアブラムシ
48. サワグルミ：サワグルミオオミツアブラムシ
49. サワシバ：サワシバブチアブラムシ
50. シラカシ：クリオオアブラムシ
51. シラスゲ：ムギヒゲナガアブラムシ
52. シロヨメナ：ヤマシロギクヒゲナガアブラムシ，
ヨメナコナジラミモドキ
53. スイカズラ：スイカズラヒゲナガアブラムシ
54. スダジイ：クリオオアブラムシ，シイニセケク
ダアブラムシ，オカジマケクダアブラムシ
55. セイタカアワダチソウ：ユキヤナギアブラムシ，
セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ
56. セイヨウキツタ：キツタミドリアブラムシ
57. センニンソウ：センニンソウワタムシ
58. ソメイヨシノ：オカボアカアブラムシ
59. タイアザミ：アザミオオヒゲナガアブラムシ
60. タマアジサイ：コモチシダコブアブラムシ
61. タンポポ属の1種：タンポポアブラムシ
62. チドリノキ：モミジニタイケアブラムシ，チド
リノキカマガタアブラムシ
63. ツタウルシ：ミカンクロアブラムシ
64. ツリフネソウ：キツリフネコブアブラムシ，ホ
ウセンカヒゲナガアブラムシ，ホウセンカコブアブ
ラムシ
65. ツルニンジン：キキョウアブラムシ
66. テリハコナラ：コナラケクダアブラムシ
67. トネアザミ：アザミクギケアブラムシ
68. トリアシショウマ：チダケサシヒゲナガアブラ
ムシ
69. ナギナタコウジュ：ナギナタコウジュワタムシ
70. ニワトコ：ニワトコヒゲナガアブラムシ
71. ヌルデ：ハゼアブラムシ，ヌルデシロアブラム
シ
72. ノイバラ：イバラヒゲナガアブラムシ
73. ノゲシ：チシャミドリアブラムシ，タイワンヒ
ゲナガアブラムシ，ノゲシフクレアブラムシ
74. ノダケ：シシウドネフタオアブラムシ
75. ノハラタイアザミ：ゴボウクギケアブラムシ
76. ノブキ：シナノキトックリアブラムシ，*Uroleucon*
(*Uromelan*) sp.
77. ハガクレツリフネ，ツリフネソウスナヨセアブ
ラムシ，ホウセンカヒゲナガアブラムシ
78. ハンノキ：ハンノキチビブチアブラムシ
79. フキ：フキアブラムシ
80. ブナ：ブナクチナガオオアブラムシ

81. ヘクソカズラ : ヘクソカズラヒゲナガアブラムシ
82. ベニシダ : コモチシダコブアブラムシ
83. ボタンヅル : ボタンヅルヒゲナガアブラムシ
84. マタタビ : コミカンアブラムシ
85. ミズ : ミズコブアブラムシ
86. ミゾソバ : タデヨツオヒゲナガアブラムシ, タイワンヨツオヒゲナガアブラムシ, スイカズラヒゲナガアブラムシ, タデミドリイボアブラムシ
87. ミツバ : ハナウドチビクダアブラムシ
88. ミツバウツギ : キスゲフクレアブラムシ
89. ムカゴイラクサ : ムカゴイラクサスナヨセアブラムシ
90. ムクノキ : コミカンアブラムシ
91. ヤクシソウ : ワダンコブアブラムシ
92. ヤナギ属の1種 : ヤナギアブラムシ
93. ヤブタバコ : ヤブタバココナジラミモドキ
94. ヤマブキ : ヤマブキヒゲナガアブラムシ
95. ヤマボウシ : ヤマボウシヒゲナガアブラムシ
96. ヨグソミネバリ : カバヒゲナガブチアブラムシ, マンサクイボフシアブラムシ
97. ヨモギ : アオヒメヒゲナガアブラムシ, キタヒメヒゲナガアブラムシ, サクラコブアブラムシ, ヒコサンヒメヒゲナガアブラムシ, ヨモギオナガヒメヒゲナガアブラムシ, ヨモギキイロコブアブラムシ, ヨモギクダナシアブラムシ, ヨモギクビレアブラムシ, ヨモギハアブラムシ, ヨモギヒメヒゲナガアブラムシ, ヨモギミドリクギケアブラムシ
98. ヨモギ属の1種 : ヨモギヒメヒゲナガアブラムシ
99. ワスレグサ属の1種 : キスゲフクレアブラムシ
100. ワラビ : ワラビツメナシアブラムシ

引用・参考文献

Blackman, R.L. and V.F. Eastop 1994. *Aphids on the world's trees: An identification and information guide*. 1024 pp., CaB Intl.

Blackman, R.L. and V.F. Eastop. 2006. *Aphids on the world's herbaceous plants and shrubs, 2 Volume set*. 1460 pp., Wiley.

松本嘉幸. 2008a. アブラムシ入門図鑑. 239 pp., 全国農村教育協会.

松本嘉幸. 2008b. カメムシ目 (アブラムシ類). 茨城県総合調査報告書 -2007 年茨城県の昆虫類およびその他の無脊椎動物の動向 -, pp. 15-17, ミュージアムパーク茨城県自然博物館.

松本嘉幸. 2009. カメムシ目 (アブラムシ類). 茨城県総合調査報告書 -2008 年茨城県の昆虫類およびその他の無脊椎動物の動向 -, pp. 13-17, ミュージアムパーク茨城県自然博物館.

松本嘉幸. 2010. カメムシ目 (アブラムシ類). 茨城県総合調査報告書 -2009 年茨城県の昆虫類およびその他の無脊椎動物の動向 -, pp. 21-24, ミュージアムパーク茨城県自然博物館.

松本嘉幸. 2011. カメムシ目 (アブラムシ類). 茨城県総合調査報告書 -2010 年茨城県の昆虫類およびその他の無脊椎動物の動向 -, pp. 19-20, ミュージアムパーク茨城県自然博物館.

松本嘉幸. 2012. カメムシ目 (アブラムシ類). 茨城県総合調査報告書 -2011 年茨城県の昆虫類およびその他の無脊椎動物の動向 -, pp. 27-28, ミュージアムパーク茨城県自然博物館.

松本嘉幸. 2013. カメムシ目 (アブラムシ類). 茨城県総合調査報告書 -2012 年茨城県の昆虫類およびその他の無脊椎動物の動向 -, pp. 18-19, ミュージアムパーク茨城県自然博物館.

松本嘉幸. 2015. カメムシ目 (アブラムシ類). 茨城県総合調査報告書 -2013 年茨城県の昆虫類およびその他の無脊椎動物の動向 -, pp. 23-24, ミュージアムパーク茨城県自然博物館.

Miyazaki M. 1971, A revision of the tribe Macrosiphini of Japan. (Hom., Aphid.). *Insecta Matsumurana*, (34): 1-247.

宗林正人. 1976. 樹木に寄生するアブラムシ (4). 森林防疫, 25: 11-23.

シリアゲムシ目

櫻井 浩

2014 年のシリアゲムシ目昆虫の動向

2014 年のシリアゲムシ目昆虫の動向としては、生息環境、記録などの文献など、共に目立った変化は見られなかった。現時点で確認されているシリアゲムシ目昆虫の種数は、シリアゲムシ科が 7 種、ガガンボモドキ科が 4 種と少ないが、標高 1,000 m を超える環境が八溝山 (1,022 m) 1 か所だけという事を考えると仕方がない事である。ただ、今まで調査された地域は断片的であり、多くの地域が未調査であることから、今後追加種が記録される可能性は大きい。

2014 年に調査した知見について、以下に記しておく。

シリアゲムシ科 *Panorpidae*

1. ヒロオビシリアゲ

Panorpa miyakei Miyamoto, 1979

八溝山において櫻井 (2009) による僅かな記録だけであったため、8 月 3 日に追加調査を行ったが確認出来なかった。生息地の環境には特に変化は見られず、個体数が著しく少ないうえ、発生時期のずれも考えられる。

2. スカシシリアゲモドキ

Panorpodes paradoxus MacLachlan, 1875

2♂, 17. V. 2014, 石岡市大塚・加波山, 櫻井浩。

今までの調査で唯一ライトに飛来した種であり、今回も手持ちライト (7 W 蛍光灯) による夜間調査を行ない、過去記録のある加波山山頂付近において確認した。

ガガンボモドキ科 *Bittacidae*

1. ガガンボモドキ

Bittacus nipponicus Navás, 1909

1♂1♀, 12. VI. 2014, 常総市水海道小山戸町, 櫻井浩; 2♂2♀, 12. VI. 2014, 下妻市堀竈, 櫻井浩。

鬼怒川および小貝川の河畔林において生息調査を行なった。

鬼怒川の河畔林は、規模は小さいものの湿り気のある良好な生息環境が点在し、数か所で生息を確認できた。小貝川においては、下妻市の「小貝川ふれあい公園」の河畔林で多くの個体を確認した。公園敷地内の河畔林は 1 km 以上にわたり広がっており、ガガンボモドキの発生個体数は極めて多かった。県内では最も規模の大きな産地と思われる。ただ、小貝川の増水時には水没することもあり、発生数は年により変動があると思われる。

2. トガリバガガンボモドキ

Bittacus mastrillii Navás, 1913

八溝山の東側にあたる池ノ平 (879.7 m) において確認した。今まで八溝山周辺の狭い範囲で確認されていたが、東へ 2 km 以上離れた池ノ平の尾根で確認した。ここから南東に 900 m 前後の尾根が続いており、さらに広い範囲に生息の可能性がある。今後の調査で確認したい。

引用文献

櫻井 浩. 2009. 茨城県のシリアゲムシ. ゐりぼし, (38): 17-21.

2014 年のシリアゲムシ目昆虫に関する文献

特になし。

コウチュウ目

大桃 定洋

2014 年コウチュウ目昆虫の動向

1. 調査状況

茨城県産コウチュウ目昆虫の調査は 3,000 種の確認を当面の目標として進め、2013 年度までに 2,991 種（記述抜けと計算違いがあり、正確には 112 科 2,993 種）を記録して目標達成が目前となった。2014 年は特に夏季から初秋の高温と乾燥で、2013 年と同様に平地から中山間部では虫影は貧弱であり、結果的に県初記録として 4 科 4 種しか記録できなかった。しかし、文献記録として 16 科 32 種が報告されたので、合計すると 16 科 32 種の増加となり、茨城県産コウチュウ目は 112 科 3,025 種となる。科別種類数一覧を別表（表 1）に示した。

2. 追加種

オサムシ科 **Carabidae** (353+1=354 種)

1. カワツブアトキリゴミムシ

Amphimenes piceolus Bates, 1873

1 ex., 15. VI. 2014, 笠間市岩間町・愛宕山, 大桃定洋.

ゲンゴロウ科 **Dytiscidae** (40+1=41 種)

1. ニセルイスツブゲンゴロウ

Laccophilus lewisoides Brancucci, 1983

つくば市館・細草川の道;つくば市北条・山口（大桃・高野, 2014）.

ハネカクシ科 **Staphylinidae** (275+6=281 種)

1. ナカネメダカオオキバハネカクシ

Megalopinus japonicus Nakane, 1957

高萩市堅破山（公文・公文, 2014）.

2. クロオオキバハネカクシ

Oxyporus niger Sharp, 1889

大子町花瓶山（公文, 2014）.

3. ヒゲナガホソミズギワハネカクシ

Derops longicornis (Sharp, 1889)

笠間市稲田・大光寺（大桃・高野, 2014）; 3 exs.,

10. IV. 2014, 美浦村陸平貝塚, K. Takahashi .

4. チビホソハネカクシ

Lispinus impressicollis longulus Sharp, 1874

つくば市館・細草川の道（大桃・高野, 2014）.

5. ツマキケシデオキノコムシ

Scaphisoma haemorrhoidale Reitter, 1877

龍ヶ崎市別所町（大桃・高野, 2014）.

6. ヘリアカデオキノコムシ

Scaphidium reitteri Lewis, 1879

高萩市・堅破山（公文・公文, 2014）; 大子町・花瓶山（公文, 2014）.

タマムシ科 **Buprestidae** (70+1=71 種)

1. ニセシラケナガタマムシ

Agrilus masumotoi Ohmomo, 2010

常陸太田市・武生林道; 常陸大宮市・御前山; 水戸市八幡町; 土浦市右靱 (Ohmomo, 2010; 大桃・高野, 2014); つくば市館・細草川（大桃・高野, 2014）.

ジョウカイボン科 **Cantharidae** (35+3=38 種)

1. キリヤマクビボソジョウカイ

Asiopodabrus kiriyamai (Takahashi, 2002)

大子町・八溝山 (Takahashi, 2012; 大桃・高野, 2014).

2. ヤミゾクビボソジョウカイ

Asiopodabrus yamizoensis Takahashi, 2012

大子町・八溝山 (Takahashi, 2012; 大桃・高野, 2014).

3. ユニシガワクビボソジョウカイ

Asiopodabrus yunishigawanus (Takahashi, 2002)

大子町・八溝山 (Takahashi, 2012; 大桃・高野, 2014).

ケシキスイ科 **Nitidulidae** (83+2=85 種)

1. ヒゲブトヒラタケシキスイ

Epuraea depressa (Illiger, 1798)

- 1 ♂ 1 ♀, 20-29. V. 2007, 太子町・八溝山 (衝突板ト
ラップ), K. Ichige; 1 ♀, 20-29. V. 2007, 牛久市下根町,
K. Takahashi.

2. トゲナシチビケシキスイ

Meligethes placidus Easton, 1957

- 3 exs., 8. VII. 2014, 美浦村・陸平貝塚, 大桃定洋.

ナガシクイムシ科 **Bostrychidae** (5+1=6 種)

1. セマダラナガシクイ

Lichenophanes carinipennis (Lewis, 1896)

- 城里町 (渡辺・染谷, 2014); 3 exs., 8. VII. 2014, 美浦
村・陸平貝塚, K. Takahashi.

ヒメハナムシ科 **Phalacridae** (8+1=9 種)

1. チビズマルヒメハナムシ

Phalacrus luteicornis Champion, 1924

- 常陸太田市・西金砂山 (大桃・高野, 2014).

ツツキノコムシ科 **Ciidae** (13+1=14 種)

1. コモンツツキノコムシ

Cis maculatus Chujo, 1939

- つくば市館・細草川の道 (大桃・高野, 2014).

コブゴミムシダマシ科 **Zopheridae** (16+1=17 種)

1. クロオビナガセスジホソカタムシ

Bitoma crenata (Fabricius, 1775)

- 土浦市宋塚・大池 (金子・青木, 2014).

ゴミムシダマシ科 **Tenebrionidae** (102+2=104 種)

1. ウスイロゴミムシダマシ

Strongylium brevicorne Lewis, 1894

- 太子町・花瓶山 (公文, 2014).

2. セコブナガキマワリ

Strongylium gibbosipenne Nakane, 1963

- 太子町・花瓶山 (公文, 2014).

ナガクチキムシ科 **Melandryidae** (44+1=45 種)

1. コイチャニセハナノミ

Orchesia marseuli Lewis, 1895

- 太子町・花瓶山 (公文, 2014).

チビキカワムシ科 **Salpingidae** (12+1=13 種)

1. モンシロハネカクシダマシ

Inopeplus quadrinotatus (Gorham, 1873)

- 小美玉市・羽木上森林公園 (大桃・高野, 2014).

ヒゲナガゾウムシ科 **Anthribidae** (48+1=49 種)

1. キンヘリノミヒゲナガゾウムシ

Choragus compactus Sharp, 1891

- 太子町・花瓶山 (公文, 2014).

チビゾウムシ科 **Nanophyidae** (5+1=6 種)

1. ケンチビゾウムシ

Nanophyes suturalis Pic, 1907

- 下妻市・小貝川畔; 阿見町小池 (大桃・高野,
2014).

ゾウムシ科 **Curculionidae** (257+1+9=265 種)

1. カグヤヒメゾウムシ

Lepidomyctides nagaii Yoshihara et Morimoto, 1994

- 牛久市下根町 (大桃・高野, 2014).

2. オオクマハナゾウムシ

Anthonomus okumai Morimoto et Miyakawa, 1985

- 鹿嶋市大小志崎 (大桃・高野, 2014).

3. マダラケシツブゾウムシ *Smicronyx madaranus* Kono, 1930

- 取手市小文間 (大桃・高野, 2014).

4. ヒメクロツツキクイゾウムシ

Magdalis flavicornis (Gyllenhal, 1837)

- 笠間市岩間町・愛宕山 (大桃・高野, 2014).

5. キイロアシブトゾウムシ

Endaeus flavipes (Kojima et Morimoto, 1995)

- 笠間市岩間町・愛宕山 (大桃・高野, 2014).

6. ホソアシブトゾウムシ

Nipponochyromera gracilipes (Kojima et Morimoto, 1996)

- 常陸太宮市緒川・小草 (大桃・高野, 2014).

7. アシナガオニゾウムシ

Gasterocercus longipes Kono, 1932

- つくば市館・細草川 (大桃・高野, 2014).

8. モンシロカレキゾウムシ

Acicnemis dividicincta Morimoto et Miyakawa, 1995

- 太子町・花瓶山 (公文, 2014).

9. ミヤマヒシガタクモゾウムシ

表 1. 茨城県で記録されたコウチュウ目昆虫の科別種類数 (112 科 3,025 種)

科 名	種 数	科 名	種 数	科 名	種 数
1. ナガヒラタムシ科 Cupedidae	1	39. タマムシ科 Buprestidae	71	77. ヒメマキムシ科 Lathridiidae	16
2. セスジムシ科 Rhysodidae	2	40. コメツキムシ科 Elateridae	135	78. ツツキノコムシ科 Ciidae	14
3. ヒゲブトオサムシ科 Paussidae	1	41. ヒゲブトコメツキ科 Throscidae	3	79. コキノコムシ科 Mycetophagidae	14
4. カワラゴミムシ科 Omophronidae	1	42. コメツキダマシ科 Eucnemidae	24	80. ゴミムシダマシ科 Tenebrionidae	104
5. ハンミョウ科 Cicindelidae	9	43. ペニボタル科 Lycidae	22	81. ムキゲホソカタムシ科 Bothrideridae	1
6. オサムシ科 Carabidae	354	44. ホタル科 Lampyridae	10	82. コブゴミムシダマシ科 Zopheridae	17
7. ホソクビゴミムシ科 Brachinidae	5	45. ホタルモドキ科 Omethidae	2	83. キノコムシダマシ科 Tetratomidae	7
8. コガシラミズムシ科 Halipidae	4	46. ジョウカイイボシ科 Cantharidae	38	84. デバヒラタムシ科 Prostomidae	1
9. コツブゲンゴロウ科 Noteridae	2	47. マキムシモドキ科 Derodoniidae	2	85. チビキカワムシ科 Salpingidae	13
10. ゲンゴロウ科 Dytiscidae	41	48. カツオブシムシ科 Demestidae	17	86. ホソキカワムシ科 Mycteridae	1
11. ミズスマシ科 Gyrinidae	6	49. ヒメトゲムシ科 Nosodendridae	1	87. クビナガムシ科 Cephaloidea	3
12. ダルマガムシ科 Hydraenidae	8	50. ナガシケンクイムシ科 Bostrychidae	6	88. アカハネムシ科 Pyrochroidae	10
13. セスジガムシ科 Helophoridae	1	51. シバンムシ科 Anobiidae	22	89. ヒラタナガクチキムシ科 Synchronidae	1
14. ガムシ科 Hydrophilidae	37	52. コクヌスト科 Trogossitidae	8	90. ナガクチキムシ科 Melandryidae	45
15. マルドロムシ科 Geonissidae	1	53. カッコウムシ科 Cleridae	20	91. オオハナノミ科 Rhipiphoridae	4
16. エンマムシモドキ科 Syntelidae	1	54. ジョウウカイモドキ科 Melyridae	9	92. ハナノミ科 Mordellidae	28
17. エンマムシ科 Histeridae	37	55. ツツシケンクイ科 Lymexylonidae	2	93. ハナノミダマシ科 Scaptidae	2
18. ムクゲキノコムシ科 Ptiliidae	3	56. ヒメキノコムシ科 Sphindidae	3	94. カミキノモドキ科 Oedemeridae	21
19. タマキノコムシ科 Leiodidae	25	57. ネスイムシ科 Rhizophagidae	10	95. ツチハンミンヨウ科 Meloidae	6
20. ツヤシデムシ科 Agyrtidae	1	58. ヒゲボンケシキスイ科 Kateretidae	3	96. アリモドキ科 Anthicidae	22
21. シデムシ科 Silphidae	14	59. ケシキスイ科 Nitidulidae	85	97. ニセクビボンムシ科 Aderidae	8
22. ハネカクシ科 Staphylinidae	281	60. ツツヒラタムシ科 Passandridae	1	98. ホソカミキノコムシ科 Disteniidae	1
23. クワガタムシ科 Lucanidae	14	61. ヒラタムシ科 Cucujidae	4	99. カミキノムシ科 Cerambycidae	244
24. コブスジコガネ科 Trogidae	7	62. チビヒラタムシ科 Laemophloeidae	14	100. ハムシ科 Chrysomelidae	232
25. コガネムシ科 Scarabaeidae	129	63. ホソヒラタムシ科 Silvanidae	15	101. マメゾウムシ科 Bruchidae	11
26. マルハナノミダマシ科 Eucinetidae	1	64. キスイムシ科 Cryptophagidae	18	102. ヒゲナガゾウムシ科 Anthribidae	49
27. マルハナノミ科 Scirtidae	19	65. オオキスイムシ科 Helotidae	2	103. オトシブミ科 Attelabidae	21
28. ナガハナノミ科 Ptilodactylidae	7	66. ムクゲキスイムシ科 Biphylidae	8	104. ミツギリゾウムシ科 Brentidae	3
29. ナガハナノミダマシ科 Armatopidae	2	67. キスイモドキ科 Byturidae	2	105. チョウツギリゾウムシ科 Rhynchitidae	27
30. マルトゲムシ科 Byrrhidae	4	68. オオキノコムシ科 Erotyidae	54	106. チビゾウムシ科 Nanophidae	6
31. ダエンマルトゲムシ科 Chelonariidae	1	69. ミジンムシダマシ科 Discolomidae	1	107. イネゾウムシ科 Enrihimidae	5
32. ヒラタドロムシ科 Pusephenidae	8	70. ミジンムシモドキ科 Phaenoccephalidae	1	108. ホソクチゾウムシ科 Apionidae	12
33. ナガドロムシ科 Heteroceridae	2	71. カクホソカタムシ科 Cerylonidae	5	109. ゾウムシ科 Curculionidae	265
34. チビドロムシ科 Limnichidae	2	72. ミジンムシ科 Corylophidae	8	110. オサゾウムシ科 Rhynchophoridae	8
35. ドロムシ科 Dryopidae	1	73. テントウムシダマシ科 Endomychidae	18	111. ナガキクイムシ科 Platypodidae	2
36. ヒメドロムシ科 Elmidae	18	74. マルデントウムシダマシ科 Mychothenidae	3	112. キクイムシ科 Scolytidae	26
37. クシヒゲムシ科 Rhipiceridae	1	75. テントウムシ科 Coccinellidae	70		
38. ホソクシヒゲムシ科 Callirhipidae	1	76. ヒメハナムシ科 Phalacridae	9	合 計	112 科 3,025 種

Lobotrachelus minor (Hustache, 1921)

常陸太田市・武生林道（大桃・高野，2014）。

3. 調査地の状況

キンイロネクイハムシ，オオネクイハムシ，キイロジョウカイなどの水辺環境に生息する甲虫類の貴重な産地であった，筑波山北斜面の県道7号線に沿った上曽峠周辺の沢と湿地は，伐採などの森林事業によって埋め立てられてしまった。残念ながら貴重な環境の消失である。

引用文献

- 金子道夫・青木淳一. 2014. 茨城県で発見されたヨーロッパ産のホソカタムシ. 月刊むし, (520): 33-34.
- 公文 暁. 2014. 花瓶山周辺で見つかった甲虫類の記録: その5. るりぼし, (43): 37-46.
- 公文保幸・公文 暁. 2014. 堅破山の甲虫. るりぼし, (43): 47-57.
- 大桃定洋・高野 勉. 2014. 茨城県産甲虫リスト補遺 (4). るりぼし, (43): 2-36.
- Takahashi, K.. (2012). A taxonomic study on the genus *Asiopodabrus* (Coleoptera, Cantharidae) of Japan, *Jpn. J. sys. Ent., Monographic Ser.*, (4), 359 pp.
- 渡辺 健・染谷 保. 2014. 城里町でセマダラナガシンクイを採集. るりぼし, (43): 91-92.

2014年のコウチュウ目昆虫に関する文献

- 大桃定洋・高野 勉. 2014. 茨城県産甲虫リスト補遺 (4). るりぼし, (43): 2-36.
2011年に公表された茨城県産甲虫リスト補遺 (3) に続いて補遺 (4) がまとめられ, 48科191種の茨城県産初記録が追加された。これによって茨城県産甲虫は111科3,008種を数えることとなり, 目標とした3,000種を越えることができた。なお, この補遺には県内からの記録が非常に少なかった245種の追加記録と訂正記録や重複記録 (合計15種) も含め, 合計71科450種が報告された。
- 公文 暁. 2014. 花瓶山周辺で見つかった甲虫類

の記録: その5. るりぼし, (43): 37-46.

太子町花瓶山で継続してきた甲虫相調査で98種を追加記録し, 合計で500種となった。この中には茨城県からは初記録となる9種が含まれている。

- 公文保幸・公文 暁. 2014. 堅破山の甲虫. るりぼし, (43): 47-57.

高萩市堅破山の甲虫調査で33科187種を記録した。同地域の自然環境は必ずしも甲虫類の生息には適していないようで, 以外にも種類数は少なかった。この中には茨城県からは初記録となる2種が含まれている。

- 金子道夫・青木淳一. 2014. 茨城県で発見されたヨーロッパ産のホソカタムシ. 月刊むし, (520): 33-34.

土浦市宍塚で日本からは未記録のホソカタムシが記録され, クロオビナガセシジホソカタムシの和名が与えられた。この種はヨーロッパに産する種で, 日本初記録となる。

- 大桃定洋・久松正樹・中川裕喜. 2014. 筑波山の甲虫目録・補遺 (I). 茨城県自然博物館研究報告. (17): 25-57.

筑波山の甲虫類として76科720種の目録がすでに公表されている。今回, その補遺として70科476種の目録がまとめられ, 筑波山の甲虫類は合計80科998種となった。なお, 茨城県内では筑波山からのみ記録された18科31種が含まれるが, これらの種が筑波山特有の自然環境に適応した種とは考えられず, むしろ茨城県における甲虫類の調査精度がまだ不十分であることを示唆している。

- 佐々木泰弘. 2014. 「三省堂原色昆虫図譜」の茨城県産昆虫データ. るりぼし, (43): 74-76.

三省堂原色昆虫図譜 (1950) に載った茨城県産の昆虫データが紹介された。江戸崎町 (現稲敷市) での採集データがある31種が紹介され, その中にはクワカミキリ, クロゲンゴロウ, ガムシなどの11種の甲虫類が含まれる。

- ほかに茨城県産甲虫類に関する報文11編が公表さ

れた。

- 1) 公文 暁. 2014. 鹿行地域のカミキリムシ(補遺).
るりぼし, (43): 58-59. [4種の追加].
- 2) 蔵田 駿一. 2014. 虫の思い出, るりぼし, (43):
72-73. [ルリボシカミキリの記録].
- 3) 渡辺 健. 2014. 茨城県におけるアカマダラセン
チコガネと追加記録, るりぼし, (43): 91. [大子
町と笠間市愛宕山の記録].
- 4) 渡辺 健. 2014. 常陸太田市でオオキボシハナノ
ミを採集, るりぼし, (43): 92.
- 5) 渡辺 健・染谷 保. 2014. 高萩市でアイヌコブ
スジコガネとコブナシコブスジコガネを採集, る
りぼし, (43): 91.
- 6) 渡辺 健・染谷 保. 2014. 城里町でセマダラナ
ガシンクイを採集, るりぼし, (43): 91-92.
- 7) 渡辺 健・染谷 保. 2014. 大子町でヨツバコガ
ネを採集, るりぼし, (43): 92-93.
- 8) 川村 玄季. 2014. 茨城県下における記録の少な
いカミキリムシ科甲虫3種の採集例, るりぼし,
(43): 93-94.
[ヒラヤマコブヒゲナガカミキリ, ビャクシンカミキ
リおよびキボシチビカミキリの記録]
- 9) 公文 暁・公文保幸. 2014. 茨城県北部の山間で
見つかった甲虫類. 月刊むし, (516): 38-40. [八溝
山地から3種, 多賀山地から6種, 久慈山地から
2種の記録]
- 10) 公文 暁・公文保幸. 2014. 茨城県におけるブナ
ケシカミキリの生態的知見. 月刊むし, (525): 54-
57.
[大子町上野宮における記録]
- 11) 藤田 宏. 2014. 茨城県笠間市におけるヒラ
ヤマコブハナカミキリの記録. 月刊むし, (526):
14. [笠間市岩瀬町難台山における記録]

ハチ目

久松 正樹

2014 年のハチ目昆虫の動向

2014 年は、2 月 8 日から 9 日にかけて記録的な大雪となり、つくば市では 26 cm の積雪を観測した。関東甲信地方の梅雨入りは 6 月 5 日頃で平年より早く、梅雨明けは 7 月 21 日頃で平年並であった。梅雨明け後から 8 月上旬は太平洋高気圧が強かったため晴れた日が多くなった。

記録的な降雪などはあったが、2014 年茨城県でのハチ類の発生については、特に目立った特徴は認められなかった。

ハチ類の記録については、2014 年も城里町においてウマノオバチ *Euurobracon yokahamae* (Dalla Torre, 1898) が観察された。城里町春園の綿引佳憲氏が、2014 年 8 月 12 日、風折れしたクリの倒木を切断していると、材の中にウマノオバチの蛹を発見し、採集した (図 1)。蛹の膜をはがすと、ウマノオバチの産卵管が確認された (図 2)。これまでに、冬季に材より採集した記録 (押野・久松, 2002; 久松, 2010, 2014) や、春季に成虫の営巣活動の記録 (久松, 2009) はあった。蛹の記録は、全国的にも稀有なものと思われ、今回の記録は、ウマノオバチのライフサイクルを明らかにするうえで、貴重なものといえよう。なお、採集したウマノオバチの羽化を試みたが、腐敗してしまい標本としては残らなかった。

小中学生が夏休みの自由研究として実施する研究の中には、昆虫を題材にした作品も数多く出品される。県の作品展に出品された中で、アリの生態に関する研究があったので紹介しておく。

つくば市立前野小学校 4 年の須藤遼平君は、トビイロケアリ *Lasius japonicus* Santschi, 1941 の餌運びの様子を観察し、砂糖や肉によく集まることを確認したり、通路の実験などから餌の在処を伝える方法を想像したりした。小学生らしい実験を積み重ねた成果が出ていた。また、アリの種はミュー

ジウムパーク茨城県自然博物館のボランティア茅根重夫氏の同定による。

2014 年は、茨城県のハチ類相の深化につながる調査報告は見出すことができなかった。今後、この分野の研究を深めるためには、研究者や在野の愛好家の育成なども視野に入れながら進める必要性を痛感する。



図 1. ウマノオバチの蛹が見つかったクリの材 (採集地：城里町花園，撮影：2014 年 8 月 16 日)。



図 2. 蛹の膜を取り除いたウマノオバチ (採集地：城里町花園，撮影：2014 年 8 月 16 日)。

茨城県のハチ目昆虫の記録について

2014 年に、茨城県におけるハチ類に関する報告は、佐々木 (2014) が、“るりぼし” に記した「古図鑑『三省堂原色昆虫図譜』の茨城県産昆虫データ」の中に、江戸崎町産のマルクマバチ (キムネクマバ

チ) *Xylocopa appendiculata* (採集 1929/5/24), トゲアリ *Polyrhachis lamellidens* (採集 1928/8/28), コセイボウ (ミドリセイボウ) *Praestochrysis lusca* (採集 1928/8/2) を見つけたことを報告した。正式な記録ではないが, “るりぼし” 43 号の表紙は, 水戸昆虫研究会会員の綿引建夫氏が, モンスズメバチの巣を駆除している様子が, イラストで描かれている。

引用文献

押野 浩・久松正樹. 2002. 茨城県ではじめて記録されたウマノオバチ *Euurobracon yokahamae* Dalla Torre, 1898 (Hymenoptera, Braconidae). 茨城県自然博物館研究報告, (5): 121-122.

久松正樹. 2009. 茨城県で採集されたウマノオバチの記録. つねきばち, (16): 85-86.

久松正樹. 2010. ウマノオバチの採集記録. るりぼし, (39): 80.

久松正樹. 2014. ハチ目. 茨城県自然博物館総合調査報告書-2013 年茨城県の昆虫およびその他の無脊椎動物の動向 -. pp. 38-39., ミュージアムパーク茨城県自然博物館.

ミュージアムパーク茨城県自然博物館. 2014. 地球再発見 いばらき自然ものがたり. 317 pp., 茨城新聞社.

佐々木泰弘 2014. 古図鑑「三省堂原色昆虫図譜」の茨城県産昆虫データー. るりぼし, (43): 74-76.

双翅目 (ハエ目：主にハナアブ科)

市毛 勝義

2014 年のハエ目昆虫の動向

6 月に八溝山でシコクミズアブ *Odontomyia shikokuana* を採集した。これで県内からは *Odontomyia* 属の種が本種のほか、ミドロミズアブ *O. filipjewi*、コガタミズアブ *O. garatas*、ヒラヤマミズアブ *O. hirayamae* も含めて計 4 種が確認された。日本に分布する本属 5 種のうち南方系の 1 種を除いた全ての種類が茨城県に分布していることが判明した (市毛, 2014a)。

シコクミズアブについては、今回が本州初記録と思われる。本種はタイプ標本を含め 10 頭程度の個体しか採集されておらず、本属の中でもかなり採りにくい種類と思われる。また、ミドロミズアブは北海道から中国地方にかけて分布し、京都府改訂版レッドリスト 2013 では要注目種となっている。県内では、丘陵地から山間部の水辺で早春に複数得ており、局所的な種類と思われる。その他、コガタミズアブやヒラヤマミズアブも日本各地でレッドリストに入っている。

県内最高峰である八溝山では、昨年報告したタカネクロバエ *Calliphora subalpina* など、興味深い種が多数得られているが、シコクミズアブの追加個体を採集するため八溝山に通った際、6 月 14 日にクロバエ科のマルヤマトリキンバエ *Protocalliphora maruyamensis* を複数採集し、8 月 4 日には近縁なヤドリトリキンバエ *Trypocalliphora braueri* も採集した (市毛, 2014b)。両種ともに北海道のレッドリストでは準絶滅危惧種となっている。

また、先に報告したオオヨコモンヒラタアブ *Leucozona (Ischyrosyrphus) glaucius* の雌を 6 月 13 日に、タカネクロバエ *Calliphora subalpina* の雌を 8 月 4 日に採集しており、亜高山性といわれる種が、現地で発生を繰り返している可能性が濃厚となってきた。

2014 年に発行された日本昆虫目録第 8 巻、双翅目の分布に、茨城と特記された種類を下記にリスト

アップしておく。

ヌカカ科 *Ceratopogonidae*

1. トンボダニカ

Forcipomyia (Pterobosca) tokunagai (Oka et Asahina, 1948)

ハナアブ科 *Syrphidae*

1. オオクチグロヒラタアブ

Parasyrphus nigratarsis (Zetterstedt, 1843)

2. ヤマトヒメナガヒラタハナアブ

Chamaesyrrhus japonicus Shiraki, 1956

3. プサロクロハナアブ

Psarochilosia djakonovi Stackelberg, 1952

4. ツマキハナブトハナアブ

Brachyopa violovitshi Mutin, 1985

5. タイリクケコヒラタアブ

Psilota innupta Rondani, 1857

6. ハナダカマガリモンハナアブ

Anasimyia lineata (Fabricius, 1787)

ヤチバエ科 *Sciomyzidae*

1. ヤドリヤチバエ

Pelidnoptera triangularis Knutson et Ghorpade, 2009

2. アケボノヤチバエ

Akebono vernalis Sueyoshi, 2009

クチキバエ科 *Clusiidae*

1. *Clusiodes angulosus* Sueyoshi, 2006

2. *Clusiodes discostylus* Sueyoshi, 2006

3. *Heteromeringia yamata* Sueyoshi, 2006

4. *Paraclucia ciliata* Sasakawa, 1959

5. *Phylloclusia quadrivittata* Sueyoshi, 2006

ミギワバエ科 *Ephydriidae*

1. ミナミカマバエ

Ochthera circularis Cresson, 1926

2. シキシマカマバエ

Ochthera japonica Cresson, 1977

3. チャイロヤッコミギワバエ

Polytrichophora brunneijrons de Meijere, 1916

4. セスジヒメミギワバエ

Nostima picta picta (Fallen, 1813)

5. フトハマダラミギワバエ

Scatella (Scatena) obsoleta Loew, 1861

1101 pp. + XXXII + XIV. 権歌書房.

2014 年のハエ目昆虫の文献

引用文献

市毛勝義. 2014a. 茨城産 *Odontomyia* 属 (ミズアブ科) について. はなあぶ, (38): 44-48.

市毛勝義. 2014b. *Protocalliphora maruyamensis* マルヤマトリキンバエと *Trypocalliphora braueri* ヤドリトリキンバエを茨城県で採集. はなあぶ, (38): 37.

日本昆虫目録編集委員会 (編). 2014. 日本昆虫目録第 8 巻双翅目 日本昆虫目録. 日本昆虫学会.

市毛勝義. 2014. 日本産 *Psilota* ケコヒラタアブ属の追加種 (Diptera, Syrphidae). はなあぶ, (37): 41-44.

市毛勝義. 2014. 日本産ハナアブ科数種の学名の変更について. はなあぶ, (37): 45-48.

市毛勝義. 2014. *Protocalliphora maruyamensis* マルヤマトリキンバエと *Trypocalliphora braueri* ヤドリトリキンバエを茨城県で採集. はなあぶ, (38): 37.

市毛勝義. 2014. 茨城産 *Odontomyia* 属 (ミズアブ科) について. はなあぶ, (38): 44-48.

Mutin V. A., K. Ichige. 2014. A new species of *Xylota* Meigen (Diptera: Syrphidae) from the Far East. *Zootaxa* 3878 (2): 196-200.

トビケラ目

勝間 信之

2014 年のトビケラ目昆虫の動向

2014 年は 2013 年に引き続き久慈川での調査を行い、久慈川中流部にあたる常陸大宮市盛金の久慈川本川でトビケラ類の採集（ライトトラップ）を実施した。その結果、19 種のトビケラ類が確認されたので報告する。茨城県初記録種は確認されなかったが、久慈川のトビケラ相が徐々に解明されつつあり、今後の茨城県のトビケラ相として貴重な資料となると思われる。また、確認されたトビケラ類について、現在までの県内における分布および生息状況を記載した。なお、標本はすべて筆者が保管している。

採集日、採集場所および採集者は以下のとおりであり、種名および配列は野崎 (2016) に従った。

[採集日、採集場所] 2. VIII. 2014, 茨城県常陸大宮市盛金, 勝間信之採集。

1. マツイヒメトビケラ

Hydroptila phenianica Botosaneanu, 1970

県内の中下流河川に広く分布する。

[採集記録] 1♂ 3♀。

2. アルタイヤマトビケラ

Glossosoma altaicum (Martynov, 1914)

県内の中下流河川に広く分布するが、同属のイノプスヤマトビケラ *Glossosoma ussuricum* (Martynov, 1934) よりは産地が限定される。

[採集記録] 2♀。

3. ケシヤマトビケラ属の一種（和名なし）

Padunia rectangularis Nishimoto et Nozaki, 2007

県内では那珂川水系相川で記録がある (Nishimoto and Nozaki, 2007)。全国的に記録が少ない種であるが、県内の中流河川には広く生息しているものと思われる。

[採集記録] 2♀。

4. *Kisaura* 属の一種（和名なし）

Kisaura minakawai Arefina, 2005

県内の中流河川に普通に生息する。

[採集記録] 5♂ 5♀。

5. トゲクダトビケラ

Psychomyia armata Schmid, 1964

全国的に記録は少ないが、県内では中流河川を中心に広く生息しているものと思われる。

[採集記録] 1♂。

6. ニッポンクダトビケラ

Psychomyia nipponica Tsuda, 1942

県内では中流河川を中心に広く生息しているものと思われる。

[採集記録] 1♂。

7. クダトビケラ属の一種

Psychomyia sp.

ウルマークダトビケラ *Psychomyia acutipennis* (Ulmer, 1908) として同定されてきた種であるが、原記載では雌での記載であること、且つ Tsuda 1942 の描いた本種の雄交尾器の図の一部が今回検した標本と異なることから、本種については分類学的再検討を要す。県内では中下流河川を中心に広く生息しているものと思われる。

[採集記録] 3♂。

8. マリツキイワトビケラ

Polypsectropus malickyi Nozaki, Katsuma et Hattori, 2010

県内では那珂川支流の相川や筑波山麓の細流で記録がある (Nozaki et al. 2010)。

[採集記録] 1♂。

9. ナミコガタシマトビケラ

Cheumatopsyche infascia Martynov, 1934

県内では比較的広く生息するが、県南の平野部では同属のコガタシマトビケラ *Cheumatopsyche brevilineata* (Iwata, 1927) が優占する。

[採集記録] 1♂ 11♀。

10. ナカハラシマトビケラ

Hydropsyche setensis Iwata, 1927

県内では北茨城市小川などで記録がある（勝間、

2005).

[採集記録] 1♂ 20♀.

11. エチゴシマトビケラ

Potamyia chinensis (Ulmer, 1915)

県内では那珂川および久慈川水系の中下流部に普通に生息しているようで、今回の調査ではライトトラップに最も飛来したが、♂の飛来は少ない。

[採集記録] 2♂ 139♀.

12. ヒロオカクツツトビケラ

Lepidostoma bipertitum (Kobayashi, 1955)

県中央部から県北にかけての河川に広く生息すると思われるが、県南の平野部の河川では記録がない。

[採集記録] 2♂ 19♀.

13. ニンギョウトビケラ

Goera japonica Banks, 1906

県内の河川に広く生息しているものと思われる。

[採集記録] 2♂ 12♀.

14. トサカヒゲナガトビケラ

Ceraclea superba (Tsuda, 1942)

県内では県南の平野部および那珂川支流の相川で記録がある(勝間, 2006; 勝間, 2008)。

[採集記録] 1♂ 3♀.

15. アナトゲクサツミトビケラ

Oecetis caucula Yang et Morse, 2000

県内では那珂川支流の相川および藤井川で記録がある(勝間, 2006, 2010)。

[採集記録] 9♂ 8♀.

16. ゴマダラヒゲナガトビケラ

Oecetis nigropunctata Ulmer, 1908

県内では平地から山地の河川に広く生息しているものと思われる。

[採集記録] 1♂ 3♀.

17. ニセセンカイトビケラ

Triaenodes pellectus Ulmer, 1908

県内では那珂川支流の相川で記録がある(勝間 2006)。

[採集記録] 1♀.

18. ヤマトセンカイトビケラ

Triaenodes unanims McLachlan, 1877

県内では那珂川支流相川や常陸太田市岡見湿原で記録がある(勝間, 2006, 2012)。県央から県北にかけての河川には広く生息しているものと思われる。

[採集記録] 1♀.

19. ヒメセトトビケラ *Trichosetodes japonicus* Tsuda, 1942

県内の中下流河川に広く分布すると思われるが東日本での記録は少なく、筆者の知るところでは宮城県名取市名取川での採集記録(25. VI. 2011, 宮城県名取市秋保温泉, 1♀, 筆者採集, 保管)が本種の北限の記録である。おそらく南方系の種と思われる。

[採集記録] 1♂

そのほか茨城県内で確認されたトビケラ目の状況

現在まで茨城県内で確認されているトビケラ目のうち、分類学的研究の進展に伴い、生息が明らかになった種および過去に採集された標本の整理の中で茨城県初記録と思われる種を以下に示す。

分類学的検討が必要であった日本産コバントビケラ属(*Anisocentropus*)について、分類学的な整理が行われ、日本産3種が新たに認められた(Ito et al, 2012)。このうち、勝間(2006, 2011)が記録したコバントビケラ属の一種 *Anisocentropus* sp. はコバントビケラ *Anisocentropus kawamurai* であることが明らかとなった。なお、Ito et al. (2012)の論文中には藤井川産の個体が検討標本に含まれている。

次に、筆者が保管しているトビケラ目昆虫のうち、茨城県初記録種と思われる種が3種確認されたので報告しておく。

1. ウルマーイワトビケラ属の一種

Polyplectropus sp. aff. *nocturnus*

筑波山麓の細流においてライトトラップにて採集した。同属の種として、県内ではウルマーイワトビケラ *Polyplectropus protensus* およびマリツキイワトビケラ *Polyplectropus malickyi* の2種が記録されているが、上記2種とは明らかに交尾器の形状が全く異なり別種である。ロシア極東地方で記載され、日本では三重県(森田, 1998)で記録された *Polyplectropus nocturnus* に似るが、交尾器の一部の形状が若干異なり、未記載種の可能性が高い。

[採集記録] 1♂, 27. VII. 2006, 桜川市羽鳥・男川, 筆者採集, 保管。

2. ヒラアタマスナツツトビケラ

Lepidostoma laeve (Ito, 1984)

比較的標高の高い山地の細流に生息するようで、県内では八溝山以外からは記録されていない。

[採集記録] 1♂, 17. VIII. 2005, 大子町八溝山ワサビ田, 市毛勝義採集, 筆者保管。

3. ヤマガタトビロトビケラ *Nothopsyche yamagataensis* Kobayashi, 1973

ヒラアタマスナツツトビケラ同様に県内では八溝山以外からは記録されていない。

[採集記録] 2♂, 1. X. 2005, 大子町八溝山ワサビ田, 市毛勝義採集, 筆者保管。

引用文献

- Ito, T., Y. Hayashi and N. Shimura. 2012. The genus *Anisocentropus* McLachlan (Trichoptera, Calamoceratidae) in Japan. *Zootaxa*, 31 (57): 1-17.
- 勝間信之. 2005. 茨城県内で確認したトビケラ類の記録 (第1報). るりぼし, (32): 2-10.
- 勝間信之. 2006. 茨城県内で確認されたトビケラ類の記録 (第2報) - 常陸太田市 (旧御前山村) 相川のトビケラ相 -. るりぼし, (33): 33-44.
- 勝間信之. 2010. 茨城県笠間市涸沼川におけるトビケラ類成虫の記録. るりぼし, (39): 84.
- 勝間信之. 2011. 藤井川ダム下流で採集したトビケラ. るりぼし, (40): 69.
- 勝間信之. 2012. 常陸太田市岡見湿原で確認されたトビケラ成虫の記録. 茨城県自然博物館総合調査報告書 -2011年茨城県の昆虫類およびその他の無脊椎動物の動向-, pp. 63-68, ミュージアムパーク茨城県自然博物館.
- 森田久幸. 1998. 北勢町で採集したトビケラ. ひら

くら, (42): 97.

Nishimoto, H. and T. Nozaki. 2007. New species of *Padunia* Martynov (Trichoptera: Glossosomatidae) from Japan. In Bueno-Soria, J. et al. (eds.) *Proceedings of the XIIth International Symposium on Trichoptera*, pp. 229-242, The Caddis Press, Columbus, Ohio.

野崎隆夫. 2016. 日本産トビケラのリスト. <http://tobikera.eco.coocan.jp> (2016年2月27日閲覧).

Nozaki, T., N. Katsuma and T. Hattori. 2010. Redescription of *Polyplectropus protensus* Ulmer, 1908 and description of two new *Polyplectropus* species from Japan (Trichoptera, Polycentropodidae). *Denisia*, 29: 235-242.

Tsuda, M. 1942. Japanische Trichopteren. *Systematic. Memoirs of College of Science, Kyoto Imperial Univ., Series B*, 239-339.

Ulmer, G. 1908. Japanische Trichopteren. *Deutsche Entomologische Zeitschrift*, 1908: 339-355.

2014年のトビケラ目昆虫の文献

2014年に印刷および公表された茨城県内におけるトビケラ目昆虫に関する文献は見当たらないが、2015年の2月には以下の文献が出版された。筆者は常陸太田市小島町にある三日月湖においてトビケラ類の採集を行い、10種のトビケラ類を記録、報告した。

勝間信之. 2015. トビケラ目. 茨城県自然博物館総合調査報告書 -2013年茨城県の昆虫類および無脊椎動物の動向-, pp. 45-46. ミュージアムパーク茨城県自然博物館.

チョウ目 (チョウ類)

佐々木 泰弘

2014 年のチョウ類昆虫の動向

2014 年度に注目した 3 種のチョウおよびその他の注目種について報告する。

1. ウスバシロチョウ *Parnassius citrinarius* Motschulsky, 1866 の再発見

本種は、1987 年に伊奈町（現つくばみらい市）の小貝川河川敷林で確認されて以来、県内での記録が無く、茨城における絶滅チョウ類の一つとして記録されてきた。しかし、2002 年に八溝山の県境近くの福島県側において生息が確認され（日置，2003），県内での生息が有望視されていた（図 1）。その後の調査で八溝山の栃木県側でも生息が確認できたが、茨城県側では確認できないでいた。八溝山周辺での調査では、分布拡大の様子が見られていたので（高橋，2004；佐々木，2011），県内での初記録も期待され続けたが 10 年以上できなかった。ようやく、2014 年になって八溝山の茨城県側で確認

できた次第である。確認地点は複数箇所あった（図 1）。

これらの個体は、周辺地域で毎年調査が続けられてきたことを考えれば、2014 年あるいは 2013 年に飛来した個体からの発生と考えられる。また、この年には福島県側の個体群にも大きな変化が見られた。それまでの分布拡大は年に 1 km 程度であったが、いきなり 5 km 以上拡大し久慈川本流近くまで到達したのである。分布拡大には大きな波の年があるのであろうか、このまま拡大すれば久慈川沿いにさらに南下することも考えられる。今後も分布域変化の様子を注視する必要がある。

2014 年ウスバシロチョウの記録

高橋 潔・高橋晴彦（2014）の記録

茨城県久慈郡大子町上野宮は省略してある。

1♂, 24. V. 2014, 磯神, 高橋 潔.

2♂, 24. V. 2014, 磯神, 高橋晴彦.

1♂, 24. V. 2014, 蛇穴, 高橋 潔.

1♂, 24. V. 2014, 蛇穴, 高橋晴彦.

1♂, 24. V. 2014, 磯神新田, 高橋 潔.

1♂, 24. V. 2014, 小田貝, 高橋晴彦.

2014 年採集記録

1♂, 25. V. 2014, 蛇穴新田, 佐々木泰弘.



図 1. ウスバシロチョウ確認地点（○ 1987 以前確認地点，● 2000 年以後の確認地点，◎ 2014 年確認地点）。



図 2. ウスバシロチョウ（大子町蛇穴新田，2014 年 5 月 25 日，佐々木泰弘撮影）。

ほかに腐沢での1♂(染谷 保, 未発表)の記録がある。

2. キペリタテハ *Nymphalis antiopa* (Linnaeus, 1758) の確認

本種は過去に八溝山や花園などの県北山地や筑波山, 下妻の低地などで確認され, その後県内での確認が途絶えていた種である。それが, 2012, 13年に常陸太田市の県北山地, ひたちなか市, 筑波山で採集や記録, 目撃情報が相次ぎ, 今年度も追加された(図3)。

2014年に報告された, ひたちなか市の低地での8月の記録や(木村, 2014b), 筑波山での記録(黒田, 未発表)は低地や県南地域の記録として重要である。県内に本種の生息域となる亜高山帯がないことや, 確認地点が分散していること, 2013年まで確認が途絶えていたことなどを考えると, 栃木県の生息地からの移動個体またはそこからの発生個体が茨城県内で記録されたと考えられる。2011~13年に本種の大きな地理的な移動があったのであろうか。茨城で今後も発生を続けるかどうか, 注視すべき種である。

3. アカボシゴマダラ *Hestina assimilis* (Linnaeus, 1758) の分布拡大

本種は1990年代後半に神奈川県に人為的に持ち込まれたと考えられ, その後関東地方の各地に拡散している種である。環境省が「要注意外来生物」に

指定している。

茨城県でも2011年に筑西市で確認されてから県南西地区を中心に確認報告が出ている(柄澤ほか, 2013)(今井, 2013)。おそらく現在, 県南西地域で分布を拡大していると考えられる。筆者も2014年牛久市で複数採集した(図4)。

そして2014年には県北地区の太子町男体山山頂で確認されるに至った(有賀, 2014)。筆者も同地点で翌月採集することができた(図5)。有賀(2014)の報告にあるように, 福島県南部でも本種が確認されており, 太子町の個体は福島より南下してきたとも考えられる。茨城への分布拡大を考える場合, 単純に南からだけでなく北からも含め多方面からの移動を考えなければならないであろう。県央地区へは北または南西どちらから先にやってくるの



図4. アカボシゴマダラ(牛久市女化, 2014年9月29日, 佐々木泰弘撮影)。

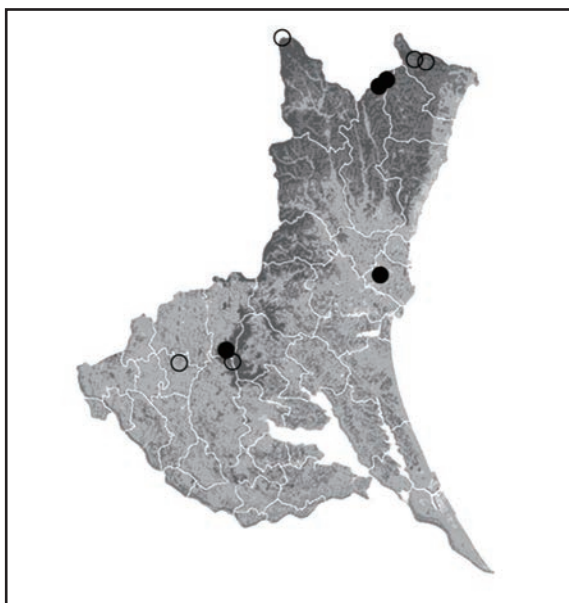


図3. キペリタテハ確認地点(○2000以前の確認地点, ●2013, 14年の確認地点)。



図5. アカボシゴマダラ確認地点(●2013年以前の確認地点, ◎2014年確認地点)。

であろうか。また、ゴマダラチョウやオオムラサキへの影響も心配である。

2014 年採集記録

1♂, 6. VII. 2014, 大子町・男体山山頂, 佐々木泰弘.

1♀, 29. IX. 2014, 牛久市女化, 佐々木泰弘.

4. その他の注目種

1. チャマダラセセリ

Pyrgus maculatus (Bremer et Grey, 1852)

1♂1♀, 3. V. 2014, 北茨城市華川町花園小川, 佐々木泰弘.

当地には、県内外からの採集者が多数訪れている。県内のチョウ類で最も採集圧の影響が心配される種である。この場所では個体数が多く見られるが、県内他地域では激減しており保護が望まれる。

2. スジグロチャバネセセリ

Thymelicus leoninus (Butler, 1878)

1♂, 8. VIII. 2014, 北茨城市華川町花園, 佐々木泰弘; 1♂, 9. VIII. 2014, 常陸太田市里川町・里美牧場, 佐々木泰弘.

県北山地の発生地では安定しているようである。

3. ミヤマカラスアゲハ

Papilio maackii Ménétrières, 1858

1♂, 31. V. 2014, 大子町・八溝山, 佐々木泰弘.
1♂, 8. VIII. 2014, 北茨城市華川町花園, 佐々木泰弘.
県内の発生地では安定しているようである。

4. スジボソヤマキチョウ

Gonepteryx aspasia Ménétrières, 1859

1♀, 3. V. 2014, 北茨城市華川町花園小川, 佐々木大輔.

県内で減少傾向の激しい種である。久しぶりに越冬個体を確認できた（図 6）。

5. ヒメシロチョウ

Leptidea amurensis (Ménétrières, 1858)

1♂, 27. IV. 2014, 北茨城市華川町花園小川, 有賀俊二（未発表）

多賀山地での初記録である（図 7）。ただし、食

草等が見当たらない場所でもあり、採集者が多く訪れているところで、誤って他地域の採集個体が放たれてしまったおそれもある。生息確認には、継続した調査が必要である。

6. ハヤシミドリシジミ

Favonius ultramarinus (Fixen, 1887)

1♂, 5. VII. 2014, 常陸太田市里川町・里美牧場, 佐々木泰弘.

大子町生瀬富士では安定しているが、里美牧場では激減している。

7. スギタニルリシジミ

Celastrina sugitanii Matsumura, 1919

3♂3♀, 12. IV. 2014, 日立市・高鈴山, 佐々木泰弘.

当地では他に数十個体を確認した（図 8）。多賀山地南部でも発生数が増加しているようである。

8. オオムラサキ

Sasakia charonda charonda (Hewitson, 1863)

1♂, 1. VII. 2014, 大子町小生瀬生瀬富士, 佐々木泰



図 6. スジボソヤマキチョウ（北茨城市花園小川, 2014 年 5 月 3 日, 佐々木泰弘撮影）。



図 7. ヒメシロチョウ（北茨城市花園小川, 2014 年 4 月 27 日, 佐々木泰弘撮影）。



図 8. スギタニルリシジミ (日立市高鈴山, 2014 年 4 月 12 日, 佐々木泰弘撮影)。

弘; 8 幼虫, 21. XII. 2014, 筑西市・小貝川, 佐々木泰弘; 5 幼虫, 4. I. 2015, 那珂市額田北郷, 佐々木泰弘。

9. オオヒカゲ

Ninguta schrenckii (Ménétrières, 1858)

1♀, 9. VIII. 2014, 常陸太田市里川町・里美牧場, 佐々木泰弘。

10. ヒメキマダラヒカゲ

Zophoessa callipteris (Butler, 1877)

1♂1♀, 6. IX. 2014, 常陸太田市里川町・里川入口, 佐々木泰弘。

近年減少傾向が見られるが, この場所は今まで確認できなかったところである。

引用文献

- 有賀俊司. 2014. 阿武隈山地におけるアカボシゴマダラの記録. るりぼし, (43): 87.
- 日置光一. 2003. 福島県棚倉町でウスバシロチョウを採集. るりぼし, (28): 35.
- 今井新太郎. 2013. アカボシゴマダラの捕獲. おけら. (67): 106.
- 柄澤保彦・中川裕喜・益子侑也・潮田好弘・須藤英治・山川稔. 2012. 茨城県におけるアカボシゴマダラ (チョウ目: タテハチョウ科) の記録. 茨城県自然博物館研究報告, (15): 3-5.
- 佐々木泰弘. 2011. 八溝山のウスバシロチョウー 2011 新確認地点の記録ー. るりぼし, (40): 36-38.
- 高橋晴彦. 2013. 常陸太田市岡見でキベリタテハを

採集・目撃. るりぼし, (42): 13-16.

高橋 潔. 2004. 八溝山のウスバシロチョウー茨城県ではいつ採れる?ー. るりぼし, (31): 24-27.

高橋 潔・高橋晴彦. 2014. ウスバシロチョウを八溝山の茨城県側で採集. るりぼし, (43): 68-69.

2014 年チョウ目昆虫 (チョウ類) の文献

秋田浩行. 2014. 八千代町でアカボシゴマダラを採集. るりぼし, (43): 84.

青木好明. 2014. 結城市におけるアカボシゴマダラの拡散・増加. 茨城生物, (34): 14-16.

有賀俊司. 2014. 阿武隈山地におけるアカボシゴマダラの記録. るりぼし, (43): 87.

有賀俊司・中田迅彦・内山孔貴. 2014. 阿武隈山地において分布を拡大したスギタニルリシジミの食樹について. るりぼし, (43): 87.

日置正義 (文責: 綿引健夫). 2014. 日置さん, 昭和 24 年の採集記. るりぼし, (43): 77-81.

井上大成. 2014. ムラサキシジミの集団越冬をつくば市で観察. るりぼし, (43): 76.

井上大成. 2014. 茨城県における 2007 年～2013 年のクロノマチョウの記録. るりぼし, (43): 82.

井上大成. 2014. ムラサキシジミの集団越冬をつくば市で観察. るりぼし, (43): 82.

井上大成. 2014. 茨城県におけるクロミドリシジミ蛹の発見例. るりぼし, (43): 83.

木村権一. 2014. 常陸太田市でキベリタテハ・2 例目の目撃. るりぼし, (43): 84.

木村権一. 2014. ひたちなか市でキベリタテハを目撃. るりぼし, (43): 85.

木村権一. 2014. ベニシジミの前翅暗化型を採集. るりぼし, (43): 85-86.

木村権一. 2014. ひたちなか市のツマグロキチョウの一産地が消滅? . るりぼし, (43): 86.

黒田亜富. 2014. チャマダラセセリの新食草. 月刊むし, (521): 57.

ミュージアムパーク茨城県自然博物館. 2014. 地球再発見 いばらき自然ものがたり. 317 pp., 茨城新聞社.

大内正典. 2014. 虫との出会い 2013. のびる, 24: 32-47.

佐々木泰弘．2014．古図鑑「三省堂原色昆虫図譜」の茨城県産昆虫データー．るりぼし，(43): 74-76.

鈴木成美．2014．筑波実験植物園のウラギンヒョウモン．茨城生物，(34): 17.

鈴木成美．2014．ラベルを読むー昭和23年(1948年)水海道産ウスバシロチョウ標本との再会ー．茨城生物，(34): 35-37.

高橋晴彦．2014．阿武隈山地のフジミドリシジミはマンサクを食うか．るりぼし，(43): 60-65.

高橋 潔・高橋晴彦．2014．ウスバシロチョウを八溝山の茨城県側で採集．るりぼし，(43): 68-69.

山口芽依・蔵満司夢．2014．茨城県南地域におけるアカボシゴマダラの記録．月刊むし，(526): 13.

チョウ目 (ガ類)

林 恵治・佐藤 和明

2014 年のガ類昆虫の動向

1. 調査活動総括

林は、2010 年から開始した筑波山域のガ類定点調査を 2014 年も継続するとともに、2013 年から開始した武生山での定点調査も並行して進めた。また、地元の取手市では自宅近所の取手市本郷での調査を終了し、新たに取手市小文間での調査を開始した。ここは利根川の河川敷に近い場所だが、環境が維持されている間に調査しておく必要がある。

2014 年の活動の結果をまとめると、30 種の県初記録種を採集したほか、発生時期の新知見や以前に報告した茨城初記録種の追認により、その種の定着が確実となったことなど、いくつかの新知見を得ることができた。佐藤は、2003 年より土浦市の宍塚大池での定点調査を継続しているが、確認種は 516 種に達した。これまでに筑波山では 681 種、取手市では 411 種のガ類を記録している。

なお、昨年 の 報告書において 2013 年末時点で茨城県産ガ類は 1,539 種と報告した。しかし、「茨城県の昆虫」(水戸昆虫研究会, 1993)で紹介された 1,167 種以降の追加記録文献やこれまでの報告の再精査によって、既に記録されている種のダブルカウントに気づき、2013 年末時点では実は 1,529 種であることが判明した。2014 年末時点では、さらに 30 種を追加できたので、茨城県のガは現時点で 1,559 種となる。

2. 茨城県初記録種の紹介

次に 2014 年に新たに確認した茨城県初記録 30 種について紹介する。

ヒゲナガガ科 *Adelidae*

1. ミドリヒゲナガ

Adela reaumurella (Linnaeus, 1758)

1ex., 12. IV. 2014, 取手市小文間, 林恵治.

ハマキガ科 *Tortricidae*

1. バラモンハマキ

Acleris comariana (Lienig et Zeller, 1846)

1ex., 27. IX. 2014, 大子町・八溝山, 釣巻岳人・佐藤和明.

2. アカネハマキ

Acleris phantastica Razowski et Yasuda, 1964

1ex., 27. IX. 2014, 大子町・八溝山, 林恵治.
ブナを食す.

3. ヨツメヒメハマキ

Cydia danilevskyi (Kuznetzov, 1973)

2♂2♀, 28. VIII. 2005, 土浦市・宍塚大池, 金子岳夫.
過去の記録を再確認し、茨城県初記録であることが判明した。なお、未発表だがそれ以前の採集記録を以前の調査メンバーであった金井節博氏から頂いているので、参考記録として紹介する。

1ex., 3. IX. 1983, 八郷町(現石岡市), 松井安俊.

ヒロズコガ科 *Tineidae*

1. アトモンヒロズコガ

Morophaga bucephala (Snellen, 1884)

1ex., 13. IX. 2014, つくば市臼井, 林恵治.

5~9 月に発生する種なので、かなり遅い記録.

スガ科 *Yponomeutidae*

1. マユミオオスガ

Yponomeuta tokyonellus Matsumura, 1931

1ex., 13. VI. 2014, 取手市小文間, 林恵治.

ヒラタマルハキバガ科 *Depressariidae*

1. シロホシマルハキバガ

Agonopterix multiplicella (Erschoff, 1877)

1ex., 23. XI. 2014, 土浦市・宍塚大池, 佐藤和明.

マルハキバガ科 *Oecophoridae*

1. フジサワベニマルハキバガ
Promalactis ermolenkoi Lvovsky, 1986
1ex., 24. V. 2014, 常陸太田市下高倉町・武生山,
林恵治.
2. サカイマルハキバガ
Promalactis sakaiella (Matsumura, 1931)
1ex., 23. V. 2014, 取手市小文間, 林恵治.
7～8月に発生するとされるが, 早い記録である.

メイガ科 *Pyrallidae*

1. クビシロノメイガ
Piletocera aegimiusalis (Walker, 1859)
1♀, 23. IX. 2014, つくば市臼井, 林恵治.
2. イノウエノメイガ
Nacoleia inouei Yamanaka, 1980
1ex., 3. IX. 2005, 土浦市・宍塚大池, 佐藤和明.
過去の記録を確認したところ, 茨城県初記録であ
った.

トリバガ科 *Pterophoridae*

1. トキンソウトリバ
Stenoptilodes taprobanes (Felder et Rogenhofer, 1875)
1ex., 13. VI. 2014, 取手市小文間, 林恵治.
2. ブドウトリバ
Nippoptilia vitis (Sasaki, 1913)
1ex., 13. IX. 2014, つくば市臼井, 林恵治.
3. ヒルガオトリバ
Emmelina argoteles (Meyrick, 1922)
1ex., 16. V. 2014, つくば市臼井, 林恵治.

シャクガ科 *Geometridae*

1. ウスベニナミシャク
Rheumaptera hedemannaria (Oberthür, 1880)
1ex., 16. III. 2008, 取手市本郷, 林 恵治.
過去の未同定標本を改めて同定したところ, 茨城
県初記録種であった.
2. オオネグロウスベニナミシャク
Photocotosia lucicolens (Butler, 1878)
1♂, 4. VI. 2006, 土浦市・宍塚大池, 佐藤和明.
過去の記録を確認したところ, 茨城県初記録種
であった.

3. ナナスジナミシャク
Venusia phasma (Butler, 1879)
1ex., 27. IX. 2014, 大子町・八溝山, 林恵治.
4. セアカカバナミシャク
Eupithecia quadripunctata Warren, 1888
2exs., 22. III. 2014, 取手市井野台, 林恵治.
5. フタモンカバナミシャク
Eupithecia repentina Vojnits et Laever, 1978
1♂, 27. IX. 2014, 大子町・八溝山, 佐藤和明・釣
巻岳人.
6. シロジマエダシャク
Eurybeidia languidata (Walker, 1862)
1ex., 10. VII. 2010, 桜川市真壁町羽鳥, 林恵治.
7. ホソバトガリエダシャク
Planociampa modesta (Butler, 1878)
1♂, 8. III. 2013, 水戸市木葉下町・森林公園, 今井
初太郎.

シャチホコガ科 *Notodontidae*

1. タッタカモクメシャチホコ
Paracerura tattakana (Matsumura, 1927)
2exs., 30. V. 2014, 高萩市大能, 染谷保・渡辺健.
(染谷・渡辺, 2014)により, 上記の初記録後, 県
北各地で続々と産地が明らかになったほか, 私信に
て今井初太郎氏からも県北各地で写真撮影に成功し
たとの情報をいただいている.

ヤガ科 *Noctuidae*

1. アサケンモン
Plataplecta pruinosa (Guenée, 1852)
1ex., 17. VIII. 2014, 桜川市真壁町東飯田, 林恵治.
ツルグミを食し, 関東以西に分布する種.
2. スジキノコヨトウ *Cryphia mediofusca* Sugi, 1959
1ex., 28. VIII. 2014, 桜川市真壁町羽鳥, 林恵治.
過去の採集標本を同定でき, 茨城県初記録種であ
った. 局地的な種で本州では内陸部から日本海側に
分布する.
3. ウスアカヤガ
Diarsia albipennis (Butler, 1889)
1♀, 22. VIII. 2014, 常陸太田市下高倉町・武生山,
林恵治.
4. シラホシキリガ

Cosmia restituta Walker, [1857]

1ex., 11. VII. 2014, 常陸太田市下高倉町・武生山, 林恵治.

5. ツマナミツマキリヨトウ

Data clava (Leech, 1900)

1ex., 25. V. 2014, 土浦市・宍塚大池, 佐藤和明・釣巻岳人.

6. ヒメアケビコノハ

Eudocima phalonia (Linnaeus, [1763])

1♂, 15. VI. 2014, 取手市井野台, 林恵治.

自宅玄関灯に飛来した. 南方系の種で 2000 年代以降, 本州に北上してきた. 今後, 県内での生息地拡大を追っていく.

7. シロテンクチバ

Hypersynoides astrigera (Butler, 1885)

1ex., 12. VI. 2010, 桜川市真壁町羽鳥, 林恵治.

過去の未同定標本を確認したところ, 茨城県初録種であった.

コブガ科 **Nolidae**

1. カマフリンガ

Macrochthonia fervens Butler, 1881

1ex., 10. VIII. 2013, 筑波山御幸ヶ原, 林恵治.

1 年前の採集標本が茨城県初録種であったことが後日判明した.

3. 注目種・希少種の採集記録

1. イチモジヒメヨトウ

Xylomoia fusei Sugi, 1976

1ex., 10. V. 2014, 取手市小文間, 林恵治.

茨城県版レッドデータブック (茨城県生活環境部, 2001) で希少種とされている種. 宮城県, 群馬県, 茨城県, 栃木県, 埼玉県, 千葉県, 新潟県の河川や沼地などの湿地に稀に生息するが, 県内では利根川本流域での記録は初めてと思われる.

2. クロシオハマキ

Archips peratrata Yasuda, 1961

1♂, 24. V. 2014, 常陸太田市下高倉町・武生山, 林恵治.

2011 年に土浦市宍塚大池で採集し, 茨城県初録種として報告した (林ほか, 2012) が, 今回 2 例目の記録が県北で出た. 南方系の種で, 県内では現時

点で北限の記録となる.

3. ヒロバウスアオエダシヤク

Paradarisa chloauges Prout, 1927

2♂1♀, 14. VI. 2014, 桜川市真壁町羽鳥, 金子岳夫.

2010 年に茨城県初録種として報告 (林ほか, 2011) したが, 今年同地で追認の報告 (金子, 2014) があり, 南方系の種であるが, 筑波山では確実に定着していることが明らかとなった.

4. ミドリリンガ

Clethrophora distincta (Leech, [1889])

1ex., 11. VII. 2014. 常陸太田市下高倉町・武生山, 今井初太郎 (写真撮影).

2013 年に武生山での記録 (林ほか, 2014) を茨城県初録種として報告したが, 2 例目の記録となる. 南方系の種であるが, 今年も武生山での記録が出て, 定着が確認できた.

5. アミメキシタバ

Catocala hyperconnexa Sugi, 1965

1ex., 11. VII. 2014, 常陸太田市下高倉町・武生山, 今井初太郎 (写真撮影); 1ex., 2. VIII. 2014, 常陸太田市下高倉町・武生山, 林恵治.

県内での記録はこれまでに 2 例のみであったが, 今年相次いで記録が出た. 筑波山, 武生山とも日付が変わる時間帯になって灯火に飛来したものを採集しており, 今まで目に触れる機会がなかったため, 記録が出なかった可能性がある.

6. アサマキシタバ

Catocala streckeri Staudinger, 1888

1ex., 11. VII. 2014, 常陸太田市下高倉町・武生山, 今井初太郎 (写真撮影).

茨城県では 2 例目の記録となる.

7. フチグロトゲエダシヤク

Nyssiodes lefuarius (Erschoff, 1872)

4♂, 22. III. 2014, 常陸大宮市岩崎岩花, 有賀俊司.

情報提供いただいた有賀氏によると「久慈川流域では福島県での記録は確認しているが, 茨城県では初記録. 久慈川が山地から平野部へ出た広い河原のサイクリング道路の堤防で採集」とのこと.

4. 発生時期に関する新発見

1. チャノコカクモンハマキ

Adoxophyes honmai Yasuda, 1988

- 1ex., 12. I. 2014, 取手市井野台, 林恵治.
屋外での発生時期は3～10月とされるが, 恐らく自宅庭のツバキで発生した個体が屋内に入り込み, 成虫越冬したものと思われる.
2. サカイマルハキバガ
Promalactis sakaiella (Matsumura, 1931)
1ex., 23. V. 2014, 取手市小文間, 林恵治.
上田 (2013) によれば, 発生時期は7～8月とされる, 年1化発生と言われているが, 不明とのこと. 採集月日から年2回発生の可能性があるので, 今回採集した場所でぜひ追認をしたい.
3. ウスキクロテンヒメシャク
Scopula ignobilis (Warren, 1901)
1ex., 12. X. 2014, 桜川市真壁町羽鳥, 林恵治.
金子 (2011) によれば, 10月にも得られているので, 場所によっては年3回発生していると思われるとのことだが, 今回筑波山で年3回発生を確認できた.
4. チャマダラキリガ
Rhynchaglaea scitula (Butler, 1879)
1ex., 24. V. 2014, 常陸太田市下高倉町・武生山, 林恵治.
10月に発生し, 成虫越冬して翌年3月頃まで生存するが, 遅くまで生存した個体を採集.

引用文献

- 林 恵治・佐藤和明・金井節博. 2011. チョウ目 (ガ類). 茨城県自然博物館総合調査報告書ー 2010年茨城県の昆虫類および無脊椎動物の動向ー. pp. 43-46, ミュージアムパーク茨城県自然博物館.
林 恵治・佐藤和明・鈴木雷太. 2012. チョウ目

- (ガ類). 茨城県総合調査報告書ー 2011年茨城県の昆虫類および無脊椎動物の動向ー. pp. 59-62, ミュージアムパーク茨城県自然博物館.
林 恵治・佐藤和明・鈴木雷太. 2015. チョウ目 (ガ類). 茨城県総合調査報告書ー 2013年茨城県の昆虫類および無脊椎動物の動向ー. pp. 35-38, ミュージアムパーク茨城県博物館.
茨城県生活環境部. 2001. 茨城県版レッドデータブック. 101 pp.
今井初太郎. 2013. 冬尺蛾を探して. おけら, (67): 74.
金子岳夫. 2011. シャクガ科, 岸田泰則 (編). 日本産蛾類標準図鑑 (I). 239 pp., 学研教育出版.
金子岳夫. 2014. 筑波山でヒロバウスアオエダシャクを採集. 誘蛾燈, 218: 122.
水戸昆虫研究会 (編). 1993. 茨城県の昆虫. pp. 238-298, 水戸市立博物館.
染谷 保・渡辺 健. 2014. 茨城県北部におけるタッタカモクメシャチホコの記録. るりぼし, (43): 90.
上田達也. 2013. 1 マルハキバガ科, 広渡俊哉・那須義次・坂巻祥孝・岸田泰則 (編). 日本産蛾類標準図鑑 (III), 217 pp., 学研教育出版.

2014年のチョウ目昆虫 (ガ類) の文献

- 荒川 正. 2014. 水戸市でホソオビアシブトクチバが羽化. るりぼし, (43): 89.
木村権一. 2014. 常陸太田市におけるニホンセセリモドキの追加記録. るりぼし, (43): 89-90.
染谷 保・渡辺 健. 2014. 太子町でギンボシスズメを採集. るりぼし, (43): 90.

茨城県の淡水海綿

茅根 重夫・池澤 広美・益田 芳樹

はじめに

茨城県の淡水海綿は茅根ほか (2008) によって 7 属 12 種が報告されている。今回、新たにツツミカイメンを確認したので、計 8 属 13 種となる。日本では今までに 11 属 25 種が報告 (益田・佐藤, 2000) されているので、その約半数が県内で記録されたことになる。今回の報告では、簡単な種の紹介と生息地の記録を種ごとに示した。手元に標本がある種については、骨格骨片および芽球骨片の写真を示したが、遊離小骨片は示していない。

採集地のデータは、採集日、採集地、採集者・同定者の順に示した。学名は益田 (2006) による。

茨城県産淡水海綿目録

単骨海綿目 Haplosclerida

タンスイカイメン科 Spongillidae

ヌマカイメン属 *Spongilla*

1. ヌマカイメン

Spongilla lacustris (Linnaeus, 1758)

骨格骨片 (図 1, 左) は長さが約 0.23 mm, やや彎曲した両針体で、表面は平滑。芽球骨片 (図 1, 右) は短い棒状で、長さは約 0.1 mm, 表面に粗く微小棘をもつ。日本に広く分布するが、中国・四国・九州では少ない。

県内の記録: 1955 ~ 1961, 霞ヶ浦, 青木行雄 (採集, 同定), (青木, 1975); 1955 ~ 1961, 北浦, 青木行雄 (採集, 同定), (青木, 1975); 1960. 7 ~ 1961. 12, 南中郷, ごんげん台, 涸沼 (台の鼻), 羽黒, 菅生沼, 霞ヶ浦 (浜), 牛久沼, 益子良恵 (採集, 同定), (益子, 1963); 1993. 12. 27, セツ洞 (水戸市), 2007. 1. 11 にも確認, 茅根重夫 (採集), 益田芳樹 (同定); 1993. 10. 17, 砂沼 (下妻市), 茅根重夫 (採集), 益田芳樹 (同定); 1999. 4. 18, ばくだん池 (岩井市), 茅根重夫 (採集), 益田芳樹 (同定); 2006. 10. 26,

新利根川 (旧東村水道橋下), 茅根重夫 (採集, 同定); 2011. 9. 28, 東仁連川 (坂東市), 茅根重夫 (採集, 同定); 2012. 12. 25, 菅生沼 (坂東市), 茅根重夫 (採集, 同定)。



骨格骨片



芽球骨片

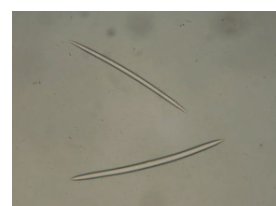
図 1. ヌマカイメン

2. シロカイメン

Spongilla alba Carter, 1849

骨格骨片 (図 2, 左) はやや彎曲した太い両針体で、表面は平滑, 長さは約 0.3 mm. 芽球骨片 (図 2, 右) は彎曲した短い棒状で、表面に小棘をもち、両端近くのものには内向きの鉤状。長さは約 0.1 mm. 汽水性で、茨城県の涸沼のほか、島根県の宍道湖および鳥取県の東郷湖の 3 か所で生息の記録がある。

県内の記録: 1937. 10. 5, 涸沼, 佐々木信男 (採集, 同定), (佐々木, 1973); 1967. 8. 1, 涸沼, 菊地義昭 (採集), 佐々木信男 (同定); 1984. 3. 25, 涸沼 (下石崎), 益田芳樹 (採集, 同定); 1960. 7 ~ 1961. 12, 涸沼 (網掛, 広浦, 長洲, 北松川, 宮前, 親沢), 益子良枝 (採集, 同定), (益子, 1963); 1999. 10. 12, 涸沼 (広浦漁港), 茅根重夫・池澤広美 (採集), 益田芳樹 (同定); 2007. 8. 31, 涸沼 (広浦公園前), 茅根重夫 (採集, 同定)。



骨格骨片



芽球骨片

図 2. シロカイメン

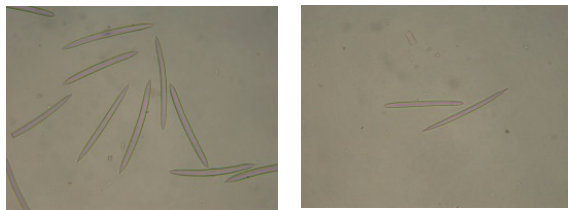
ヨワカイメン属 *Eunapius*

3. エンスイカイメン

Eunapius coniferus (Annandale, 1916)

骨格骨片(図3, 左)は真っすぐか少し彎曲した両針体で平滑, 長さは約 0.22 mm, 芽球骨片(図3, 右)は細く短い棒状で, 長さは約 0.07 mm. 国内では福岡県, 岡山県, 香川県, 茨城県でのみ確認されている希少種である.

県内の記録:2000. 9. 13, 横利根川(閘門付近), 茅根重夫(採集), 益田芳樹(同定); 2006. 10. 26, 横利根川(閘門付近), 茅根重夫(採集, 同定).



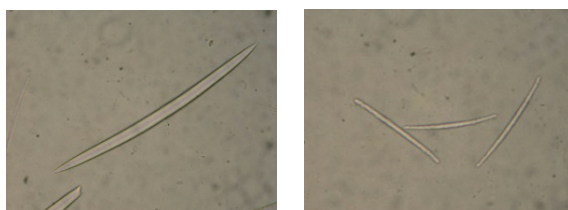
骨格骨片
図3. エンスイカイメン

4. ヨワカイメン

Eunapius fragilis (Leidy, 1851)

骨格骨片(図4, 左)はやや彎曲した両針体で平滑, 長さは約 0.23 mm. 芽球骨片(図4, 右)は棒状か, やや彎曲し, 全体に微棘をもち, 長さは約 0.07 mm. 日本国内に広く生息する.

県内の記録:1955 ~ 1961, 霞ヶ浦, 青木行雄(採集, 同定), (青木, 1975); 1960. 7 ~ 1961. 12, 花房, 芦間, 栗原, 益子良枝(採集, 同定), (益子, 1963); 1984. 3. 25, 新横利根川(東村中神), 益田芳樹(採集, 同定); 1984. 3. 25, 横利根川(西代中島), 益田芳樹(採集, 同定); 1993. 10. 17, 砂沼(下妻市), 茅根重夫(採集), 益田芳樹(同定); 2006. 6. 8, 北条大池(つくば市), 茅根重夫(採集, 同定); 2006. 6. 8, ザル池(つくば市), 茅根重夫(採集, 同定); 2014. 10. 9, 砂沼(下妻市), 茅根重夫・池澤広美(採集), 茅根重夫(同定).



骨格骨片
図4. ヨワカイメン

ホウシヤカイメン属 *Radiospongilla*

5. センダイカイメン

Radiospongilla sendai (Sasaki, 1936)

骨格骨片は中央が太く, やや彎曲した両針体で, 表面に微小棘をもつ. 芽球骨片は太い棒状で, 表面に微棘をもっている. 北海道を除く日本全域に広く生息する.

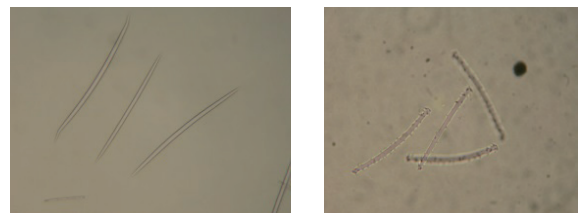
県内の記録:1993. 9. 25, 松池(つくば市北条小和田), 茅根重夫・池澤広美(採集), 益田芳樹(同定).

6. アナンデルカイメン

Radiospongilla cerebellata (Bowerbank, 1863)

骨格骨片(図5, 左)は細長い両針体で, 表面は平滑, 長さは約 0.4 mm. 芽球骨片(図5, 右)は長さが約 0.1 mm, 棒状でゆるく曲がり, 表面に中心向きの鉤状の棘がある. 日本に広く分布するが, 北海道では確認されていない.

県内の記録:1906, 霞ヶ浦, 丘浅次郎(採集, 同定), (青木, 1975); 1955 ~ 1961, 涸沼, 青木行雄(採集, 同定), (青木, 1975); 1983. 9. 30, 小貝川沿いの池(旧水海道市福岡), 茅根重夫(採集, 同定); 1993. 10. 17, 砂沼(下妻市), 茅根重夫(採集), 益田芳樹(同定); 2001. 9. 26, 砂沼, 茅根重夫(採集, 同定); 2005. 9. 27, 霞ヶ浦(ビオトープ), 茅根重夫・池澤広美(採集), 益田芳樹(同定); 2009. 8. 20, アサヒビール工場内池(守谷市), 茅根重夫(採集, 同定).



骨格骨片
図5. アナンデルカイメン

7. フンカコウカイメン

Radiospongilla crateriformis (Potts, 1882)

骨格骨片(図6, 左)は中央が太く, 緩く彎曲した両針体で, 表面に小さな棘があり, 長さは約 0.3 mm. 芽球骨片(図6, 右)は棒状で, 表面全体に鉤状の棘をもつ. 北海道を除く日本に広く分布する.

県内の記録:1955 ~ 1961, 霞ヶ浦, 青木行雄(採集, 同定), (青木, 1975); 1984. 3. 25, 横利根川(西

代中島), 益田芳樹(採集, 同定); 1994. 8. 28, 東仁連川(堀込橋下), 茅根重夫(採集, 同定)。

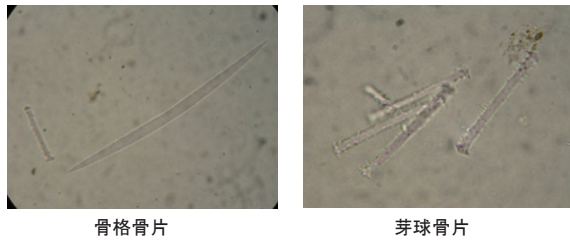


図 6. フンカコウカイメン

カワカイメン属 *Ephydatia*

8. カワカイメン

Ephydatia fluviatilis (Linnaeus, 1758)

骨格骨片(図7, 左)はまっすぐかやや彎曲した両針体で, 表面は平滑, 長さは約 0.35 mm. 芽球骨片(図7, 右)は同径の盤からなる両盤体で, その軸の長さは盤の直径より少し長い. 盤の周囲に切れ込みがある. 日本に広く分布する.

県内の記録:1955~1961, 霞ヶ浦, 青木行雄(採集, 同定), (青木, 1975); 1960. 7~1961. 12, 霞ヶ浦(牛堀, 浜), 涸沼(網掛, 台の鼻, 広浦, 親沢, 東栄寺干拓内), 菅生沼, 益子良枝(採集, 同定), (益子, 1963); 1993. 8. 17, 大膳池(潮来市島須), 茅根重夫・中村 栄(採集), 益田芳樹(同定); 1998. 12. 4, 小野川(桜川村羽生), 茅根重夫・池澤広美(採集), 益田芳樹(同定); 2014. 10. 9, 砂沼(下妻市), 茅根重夫・池澤広美(採集), 茅根重夫(同定)。

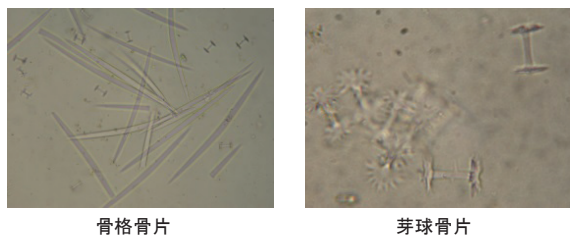


図 7. カワカイメン

9. ミュラーカイメン

Ephydatia muelleri (Lieberkühn, 1855)

骨格骨片(図8, 左)はやや彎曲した両針体で, 長さは約 0.25 mm. 表面は多くの小棘をもつものから平滑なものまである. 芽球骨片(図8, 右)は小さな同径の盤からなる両盤体で, その軸の長さは盤の直径よりも短く, 盤の周りの切れ込みは大きい. 日本に広く分布する.

県内の記録:1955~1961, 霞ヶ浦, 北浦, 砂沼, 牛久沼, 青木行雄(採集, 同定), (青木, 1975); 1960. 7~1961. 12, 霞ヶ浦(浜), 花房, 涸沼(東永寺干拓内), 羽黒, 砂沼, 菅生沼, 牛久沼, 益子良枝(採集, 同定), (益子, 1963); 1984. 3. 25, 新横利根川(東村中神), 益田芳樹(採集, 同定)。

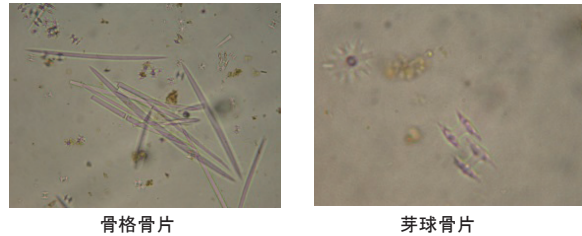


図 8. ミュラーカイメン

ジーカイメン属 *Trochospongilla*

10. ツツミカイメン

Trochospongilla latouchiana Annandale, 1907

骨格骨片(図9, 左)はやや彎曲した両針体で, 表面が平滑なものとは小棘をもつものがあり, 長さは約 0.25 mm. 芽球骨片(図9, 右)は径の異なる両盤体で, 盤はほぼ平滑, その軸の長さは大きい盤(下盤)の径よりも長い. 日本では滋賀県(琵琶湖)と岡山県のみでしか生息の記録がないので, 県内では初記録である.

県内の記録:2014. 10. 9, 横利根川(中島釣舟店横, 利根川との閘門), 茅根重夫(採集, 同定)。

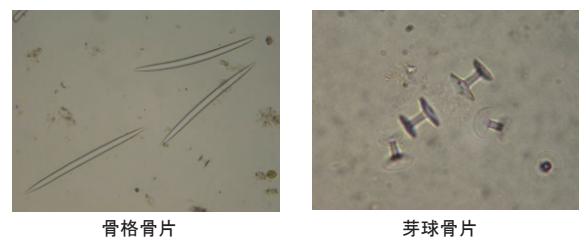


図 9. ツツミカイメン

11. ジーカイメン

Trochospongilla phillottiana Annandale, 1907

骨格骨片は, ほかの種と比べてやや短く, 中央が太く, やや彎曲した両針体である. 両端部は鋭く尖るものと鈍く終わるものがあり, 表面は多くの小棘をもつ. 芽球骨片は径の異なる盤からなる両盤体で, 盤の周囲には切れ込みはない. 上盤は下盤より少し小さい. 軸の長さは上盤の径より短い. 茨城県より南方に分布するが, 少ない.

県内の分布：1984. 3. 25, 新横利根川（旧東村中神），益田芳樹（採集，同定），2000. 11. 29, 横利根川（閘門付近），茅根重夫（採集），益田芳樹（同定）。

カワムラカイメン属 *Heteromeyenia*

12. カワムラカイメン

Heteromeyenia stepanowii (Dybowsky, 1884)

骨格骨片（図 10，左）はやや彎曲した両針体で，表面に微小棘をもち，長さは約 2.3 mm. 芽球骨片（図 10，右）は同径の盤をもつ両盤体で，盤には切れ目があり，軸の長さは盤の直径より 2 ～ 3 倍長い．日本に広く分布する．

県内の分布：1955 ～ 1961，霞ヶ浦，青木行雄（採集，同定），（青木，1975）；1960. 7 ～ 1961. 12，霞ヶ浦，ごんげん台，益子良枝（採集，同定），（益子，1963）；1993. 9. 15，溜池（太子町上金沢），中村栄（採集），益田芳樹（同定）；1993. 12. 11，バクダン池（岩井市法師戸），茅根重夫（採集，同定），2014. 10. 17，不動池および涸沼新川（笠間市小原），茅根重夫・池澤広美（採集），茅根重夫（同定）。



骨格骨片



芽球骨片

図 10. カワムラカイメン

ヨコトネカイメン属 *Sanidastra*

13. ヨコトネカイメン

Sanidastra yokotonensis Volkmer-Ribeiro et Watanabe, 1983

骨格骨片はやや彎曲した両針体で，その表面は普通平滑である．芽球骨片は両端が細くなった棒状体で，何本かの枝をもつものがある．茨城県の横利根川で採集記載された種で，後に島根県の宍道湖でも生息が確認された．

県内の記録：1983，横利根川（旧東町），渡辺洋子（採集，同定）。

引用文献

- 青木行雄．1975．茨城の淡水海綿．茨城県高等学校教育研究会生物部（編）．茨城の生物第 1 集．pp. 193-198. 茨城県高等学校教育研究会生物部．
- 益子良枝．1963．茨城県産淡水海綿の研究．卒業論文抄録集，茨城大学生物学会会報，(10): 9- 11.
- 益田芳樹．2006．日本産淡水海綿の概説および日本産の種について．タクサ（日本動物分類学会誌），20: 15-22.
- 佐々木信男．1973．本州中部（関東，中部，近畿各地方）産の淡水海綿．水大研報，21(3): 301-317.
- 茅根重夫・池澤広美・益田芳樹．2008．淡水海綿類．茨城県総合調査報告書 2007 年茨城県の昆虫およびその他の無脊椎動物の動向，pp. 61-62, ミュージアムパーク茨城県立自然博物館．
- Watanabe, Y. 1983. *Sanidastra yokotonensis*, n. gen. and n. sp. of freshwater sponge from Japan. *Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo*, Ser. A, 9 (4): 151-159.

日本産 *Parobisium* 属カニムシ研究の現状

坂寄 廣

日本産の *Parobisium* 属カニムシ

この属は当初, *Neobisium* 属の亜属として創設された (Chamberlin, 1930) が, 1960 年に Chamberlin & Malcolm によって属に昇格されたもので, 「頭胸甲に 4 眼をもち, 前縁中央部の口上突起は痕跡的である. 鋏顎動指の吐糸口の部分は瘤状に隆起し, 8 本の鞭状毛はすべて片側の縁が羽毛状になり, 触肢鋏の固定指の感覚毛は基部付近に 5 本, 先端部付近に 3 本が集まって生える」といった特徴をもつ. Harvey (1991, 2013) によってまとめられている日本産 *Parobisium* 属カニムシは以下の 4 種 3 亜種で, その分類学上の位置, 学名, 和名および基準産地を示す.

カニムシ目 *Pseudoscorpionida* de Geer

コケカニムシ科 *Neobisiidae* Chamberlin

コケカニムシ属 *Parobisium* Chamberlin

1. オウコケカニムシ

Parobisium magnum (Chamberlin, 1930)

オウコケカニムシ

P. magnum magnum (Chamberlin, 1930)

基準産地: 長崎県長崎市 (茂木, 道ノ尾)

オオエコケカニムシ

P. magnum ohuayanum (Morikawa, 1952)

基準産地: 愛媛県松山市 (杉立, 皿ヶ嶺)

本亜種は, *Neobisium* (*Parobisium*) *ohuayanus* として記載された (Morikawa, 1952) が, その後 *P. magnum* の亜種に変更された (Morikawa, 1960).

2. キイロコケカニムシ

Parobisium flexifemuratum (Chamberlin, 1930)

基準産地: 長崎県長崎市 (道ノ尾)

3. *Parobisium anagamidense* (Morikawa, 1957)

本種の学名はこれまで *Parobisium anagamidensis*

と記述されてきた (Morikawa, 1957, 1960; Harvey, 1991) が, *Parobisium* は中性名詞であることから種小名が *anagamidense* と修正された (Harvey, 2013).

ホラアナガミコケカニムシ

P. anagamidense anagamidense (Morikawa, 1957)

基準産地: 愛媛県吉川村穴神洞 (現: 香南市)

アナガミコケカニムシ

P. anagamidense esakii (Morikawa, 1960)

基準産地: 愛媛県面河溪

アナガミオオコケカニムシ

P. anagamidense morikawai Harvey, 1991

基準産地: 福岡県荏田町平尾台カルスト青龍窟
本亜種は *P. anagamidense longidigitatus* として記載されたが, フランスから報告されている近縁種の *Neobisium* (*Blothrus*) *longidigitatum* と種小名が同じであることから, Harvey によって変更された.

4. *Parobisium imperfectum* (Chamberlin, 1930)

<和名なし>

基準産地: 長崎県長崎市 (道ノ尾)

本種は森川によって, *P. magnum* のシノニムとされた (Morikawa, 1960) が, Muchmore によって独立種とされて (Muchmore, 1968), 今日に至っている.

茨城県で採集される *Parobisium* 属カニムシ

茨城県内では, 筑波山系や八溝山系の山地や県南西平地林などの各地から *Parobisium* 属カニムシが採集される. 以前, 私は筑波山より採集された標本を, オウコケカニムシ *P. magnum* や, オオエコケカニムシ *P. magnum ohuayanum* として報告した (小針, 1984; 坂寄, 1998). しかし, オオエコケカニムシの原記載の, 「体長約 3.8 mm, 触肢鋏の歯数が固定指に 79, 動指に 90」といった形質を比較すると, 筑波山産の標本は「体長が雄で約 2.8 mm, 雌で約 3.0 mm, 固定指に約 55, 動指に約 60 しか歯がない」など,

形質に違いが認められる。これまで、私はこの形質の違いを種内変異と考えてきたが、現在は別種とすべきではないかと考えている。そのため、基準産地である愛媛県松山市より入手した標本と詳細に比較検討して、県内の標本が既知種であるか未記載種であるかの結論を出したいと考えている。

引用文献

- Chamberlin, J. C. 1930. A synoptic classification of the false scorpions or chela-spinners, with a report on a cosmopolitan collection of the same. Part II. The Diplosphyronida (Arachnida-Chelonethida). *Annals and Magazine of Natural History*, 10(5): 1-48, 585-620.
- Harvey, M. S., 1991. *Catalogue of the Pseudoscorpionida*. 726 pp., Manchester University Press, Manchester.
- Harvey, M. S. 2013. Pseudoscorpions of the world, version 3.0. Western Australian Museum, Perth. <http://www.museum.wa.gov.au/catalogues-beta/pseudoscorpions>.
- 小針 廣. 1984. 筑波山における土壌性カニムシの年間消長. *Edaphologia*, 30: 1-10.
- Morikawa, K. 1952. Notes on the Japanese Pseudoscorpiones I. *Memoirs of Ehime University* (2B), 1: 249-258.
- Morikawa, K. 1957. Cave pseudoscorpions of Japan. *Memoirs of Ehime University* (2B), 4: 357-365.
- Morikawa, K. 1960. Systematic studies of Japanese pseudoscorpions. *Memoirs of Ehime University* (2B), 4: 85-172.
- Muchmore, W. B. 1968. A new species of the pseudoscorpion genus *Parobisium* from Utah (Arachnida, Chelonethida, Neobisiidae). *American Midland Naturalist*, 79: 531-534.
- 坂寄 廣. 1998. カニムシ類. 茨城県自然博物館第1次総合調査報告書, pp. 299-301, ミュージアムパーク茨城県自然博物館.

茨城陸生無脊椎動物研究会員一覧

市毛 勝義* (水戸市)
井上 尚武* (茨城県立高萩高等学校)
榎本 友好 (牛久市役所)
大桃 定洋* (稲敷郡阿見町)
勝間 信之* (㈱環境研究センター)
岸本 亨* (つくば国際大学医療保健学部保健栄養学科)
坂寄 廣* (つくば市)
櫻井 浩* (小美玉市)
佐々木泰弘* (茨城県立太田第一高等学校)
佐藤 和明* (穴塚の自然と歴史の会)
鈴木 雷太 (古河市)
茅根 重夫* (坂東市)
成田 行弘* (水戸市役所)
林 恵治* (サントリー ㈱)
疋田 直之 (水戸葵陵高等学校)
久松 正樹* (ミュージアムパーク茨城県自然博物館)
廣瀬 誠* (水戸市)
松本 嘉幸* (芝浦工業大学柏中学高等学校)
山根 爽一* (生物多様性センター)
渡辺 健* (茨城県病害虫防除所)

*…執筆者

会員以外に池澤広美 (ミュージアムパーク茨城県自然博物館) と益田芳樹 (川崎医科大学) が執筆した。

Report of Comprehensive Surveys of Plants, Animals and Geology
in Ibaraki Prefecture by the Ibaraki Nature Museum
- Trends of Insects and Other Terrestrial Invertebrates in 2014 -

Edited by Ibaraki Nature Museum
March 2016

茨城県自然博物館総合調査報告書
2014 年 茨城県の昆虫類およびその他の陸生無脊椎動物の動向
平成 28 年 3 月 31 日発行

編集 ミュージアムパーク茨城県自然博物館

発行 ミュージアムパーク茨城県自然博物館
館長 菅谷 博
〒306-0622 茨城県坂東市大崎 700
Tel 0297-38-2000

©2016 Ibaraki Nature Museum

(本書掲載記事および写真の無断転載を禁じます。)